

# KNOW

NEWS  
LETTER

# NEWS LETTER

2024.9  
第111号



公益財団法人 麻薬・覚せい剤乱用防止センター  
Drug Abuse Prevention Centre

# 目次

## 1:原点に立ち返るとき～国際麻薬規制100年～

藤野 彰（公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用センター理事長）

## 2:現状と問題点について

松本 達朗（公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用センター専務理事）

## 3:令和6年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 各地のご報告

## 4:資料

1:大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律について

2:「第六次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップより

## 5:センターからのお知らせ

## 原点に立ち返るとき ～国際麻薬規制100年～

藤野 彰（公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用センター理事長）

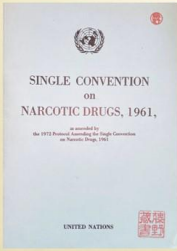
私は国連職員時代から、麻薬・覚せい剤乱用防止センターの創立当初より関わって参りました。その後、30年ぶりに日本へ戻り、理事を経て、現在は理事長として、当センターを統括しています。

このたび、私どものニュースレターを、ウェブサイト上で刊行するにあたり、シリーズで少しずつお話ししたいと考えました。

まず我々が思い起こすべきことがあります。今から半世紀前、国際社会は条約を改正してまで、薬物乱用を“防止”することが最も重要である、との意思を表明しました。

**半世紀前 麻薬単一条約の改正**

**麻薬単一条約 第38条**



「**中毒者**に対する措置」

↓ **1972年議定書**

「**乱用**に対する措置」

“**薬物乱用防止が第一**”

1912年から始まった、国際薬物規制の条約体制の進化は、1961年の「麻薬に関する単一条約」として実を結びました。その後、この条約は1972年に改正され、その中に第38条がありました。

改正前、38条のタイトルは「中毒者に対する措置」となっていました。出発点は、麻薬“中毒”だったのです。国際社会はそれを「濫用に対する措置」と置き換え、まず「濫用の“防止”に特別の考慮」を払うべきだとしました。

**麻薬単一条約の改正 ⇨ 薬物乱用防止第一**

- ・ 乱用の**防止**に特別の考慮
- ・ **早期発見、治療、教育、アフターケア、更生、社会復帰**




その防止に加え、さらに早期発見、治療、教育、アフターケア、更生から社会復帰に至るまで、あらゆる措置をとることを決めました。条約締約国相互の協力を義務付けたのです。

“乱用防止”を第一にし、それぞれの段階が、不可欠かつ重要であるということです。

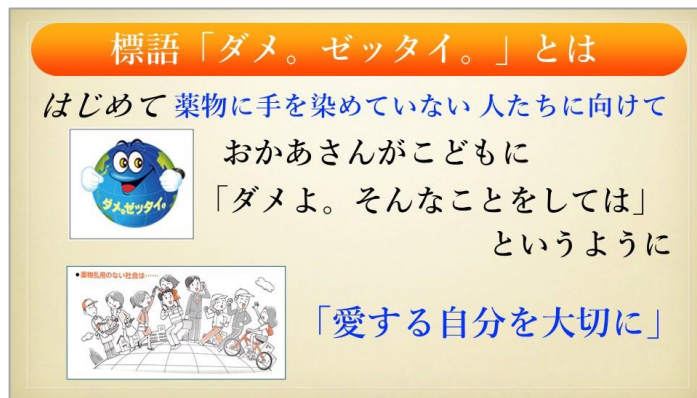
かつて、薬物乱用防止の標語は、不幸にして乱用を始めてしまった人たちへ向けてのものばかりでした。そこで初めて、薬物に手を染めていない人々を対象にする標語が創られました。それこそが“薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」”だったのです。

お母さんが子どもに、「ダメよ。そんなことをしては」と言い、子どもがそれに応えるといった、愛情のこもった親子の会話のように、と創始者たちは考えました。

だからこの標語は、不幸にして薬物依存に陥ってしまった人たちに対してではなく、始めていない人々への呼びかけであったわけです。

「覚せい剤やめますか。それとも人間やめますか。」といった昔の標語の延長ではなくて、全く新しい発想からだったのです。

その事実を、今ここで改めて思い起こしていただきたい。だからこそ、同時に「愛する自分を大切に」という双子の標語も生まれたわけですから。



“ダメ。ゼッタイ。”と言っても、やる人はやる、などという意見を吐く人たちがいるそうです。もしそうであったとしても、だからこそ、乱用防止の努力が必要不可欠なのではないでしょうか。

たとえば、“犯罪”は人の世の中から無くならないかもしれません。しかしそうだからといって、人は犯罪防止の努力を放棄するのでしょうか。

そもそも、標語を言っばなしで済むことではありません。特に若者たちが自分自身の頭で考えられるようにするにはどうしなければならないか、模索し続ける他はありません。“答え”はひとつではないのです。

もしも若者たちがその置かれている状況から薬物に逃げたいと思うときに、それを押しとどめるには、あらゆる角度から手を差し伸べなければならないのではないでしょうか。

そして、半世紀前、国際社会が確固たる意思を表明したことを、今我々は思い起こし、その原点に立ち戻るときです。この話には続きがあります。これは、またお話しいたしましょう。



## 解説 現状と問題点について

松本 達朗 (公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用センター専務理事)

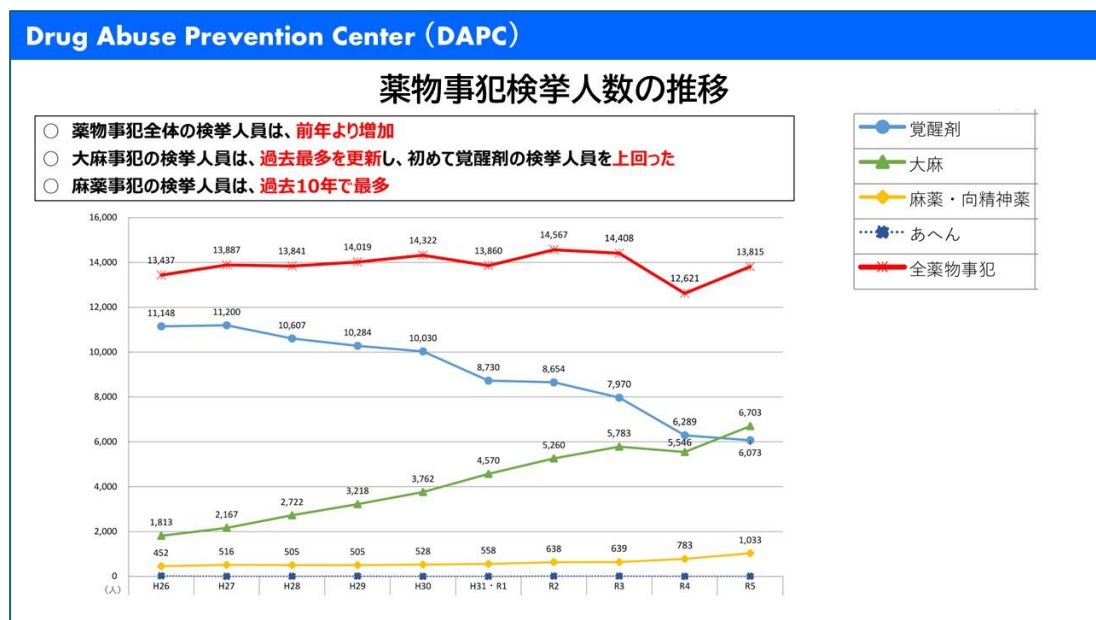
皆さんこんにちは。麻薬・覚せい剤乱用防止センターで専務理事を務めております、松本です。2022年12月にセンターの方に参りました。どうぞよろしくお願い致します。それでは私から薬物に関する現状と問題点について話をしたいと思います。

### 薬物事犯検挙者数の推移

この表は、2014年から昨年2023年までの薬物事犯での検挙者数の推移を表しています。一番上の赤色の線が薬物事犯全体の検挙者数です。2014年には全体で13,437人が検挙され、昨年は13,815人ですからさほど変わりはありません。途中若干波打っていますが、ここ9年間は1万3千から1万4千の間で推移しています。その下の青色の線、これは覚醒剤の検挙者数を表しています。2014年には11,148人が検挙されていますが、その後は減少が続き昨年は6,073人とほぼ半分近くに減っています。

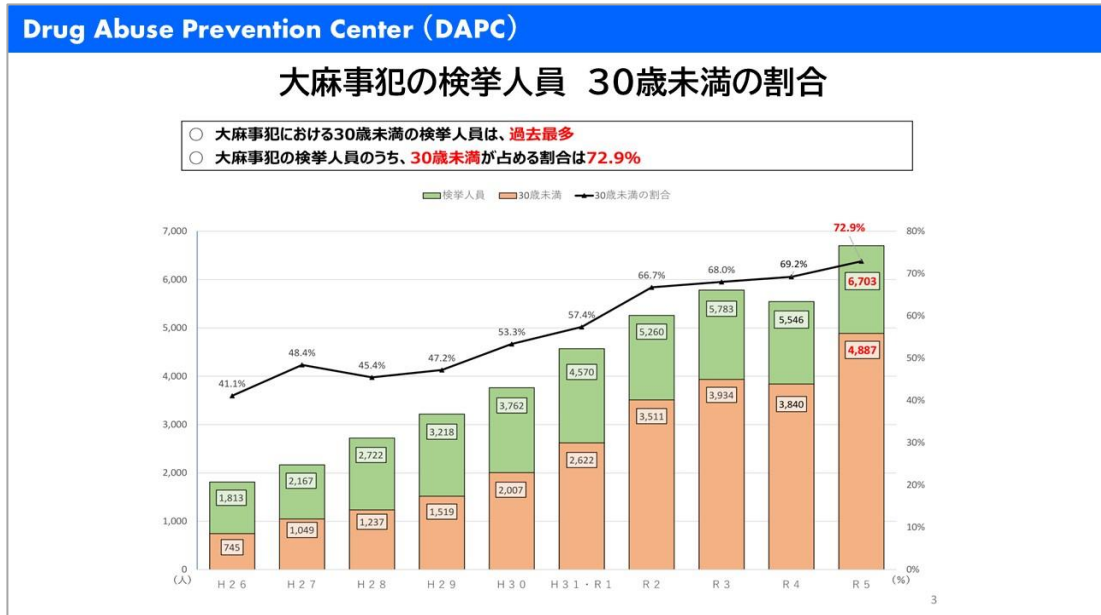
そして緑色の線が大麻の検挙者数を表していますが、2014年の検挙者数は1,813人でしたが、その後増加が続き、昨年は覚醒剤の検挙者を追い越し6,703人でした。薬物に関する統計を取って以来、大麻が覚醒剤を上回るのは初めてのことで、覚醒剤の検挙者を上回ったということもそうですが、緑色の線の流れを見て分かる通り、それだけ大麻乱用者が年々増えてきたということになります。一番下の黄色の線は麻薬・向精神薬の検挙者数です。流れはなだらかですが、それでも2014年当時の452人から昨年は倍以上の1,033人に増えています。

全体の流れを見て、大麻の検挙者数が2014年に比べて昨年の時点で約3.7倍増と急激に増加し、一方覚醒剤の検挙者数は、半分近くに減っていることが分かります。大麻が増える一方で、覚醒剤が減っている、これが現状です。ただし、覚醒剤の押収量は、2014年が約570Kgであったのが、その後波はありますが、昨年は1.6トンと2014年に比べて3倍近く押収されています。覚醒剤は海外の犯罪組織等により密輸されています。日本国内で売れるからこそ密輸をするわけですから、この数値を見る限り、覚醒剤の検挙者数が減っているとはいえ、うかつには喜べないのも現状です。



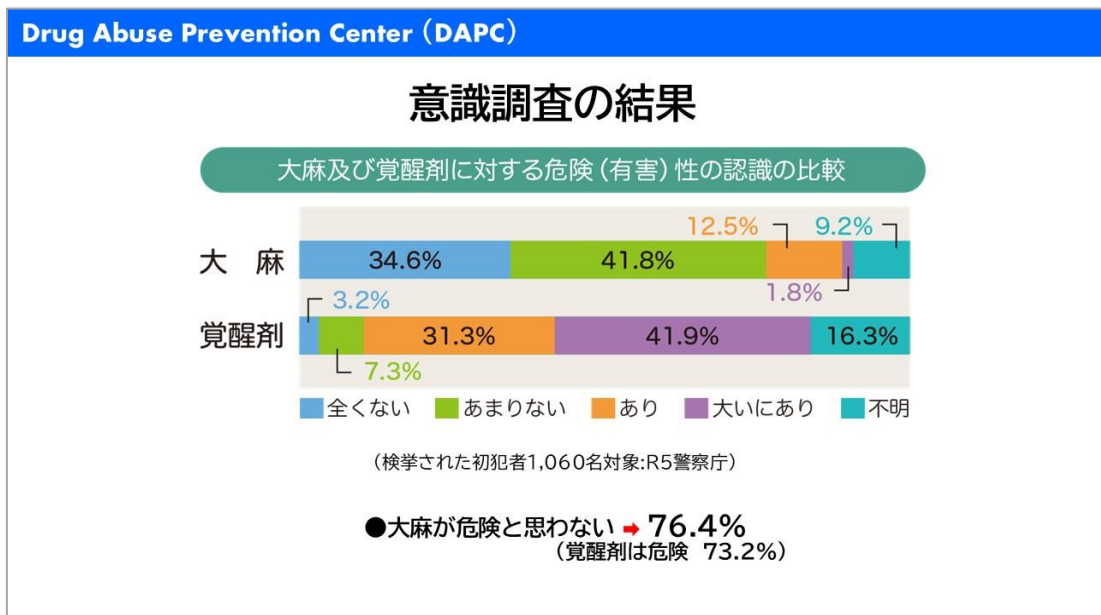
## 大麻事犯の検挙人員 30歳未満の割合

次は増えている大麻について見ていきます。この表は大麻だけの検挙者数の推移を表しています。棒グラフは色分けされていますが、上の緑の部分が30歳以上の検挙者数、下側は30歳未満の検挙者数を表しています。黒色の線グラフは30歳未満の検挙者全体に占める割合です。大麻の検挙者数が年々増えていくと同時に30歳未満の検挙者数が増えているのが分かります。昨年は大麻で検挙された人が6,703人、そのうち30歳未満の人は4,887人で、その割合は72.9%にも達しています。



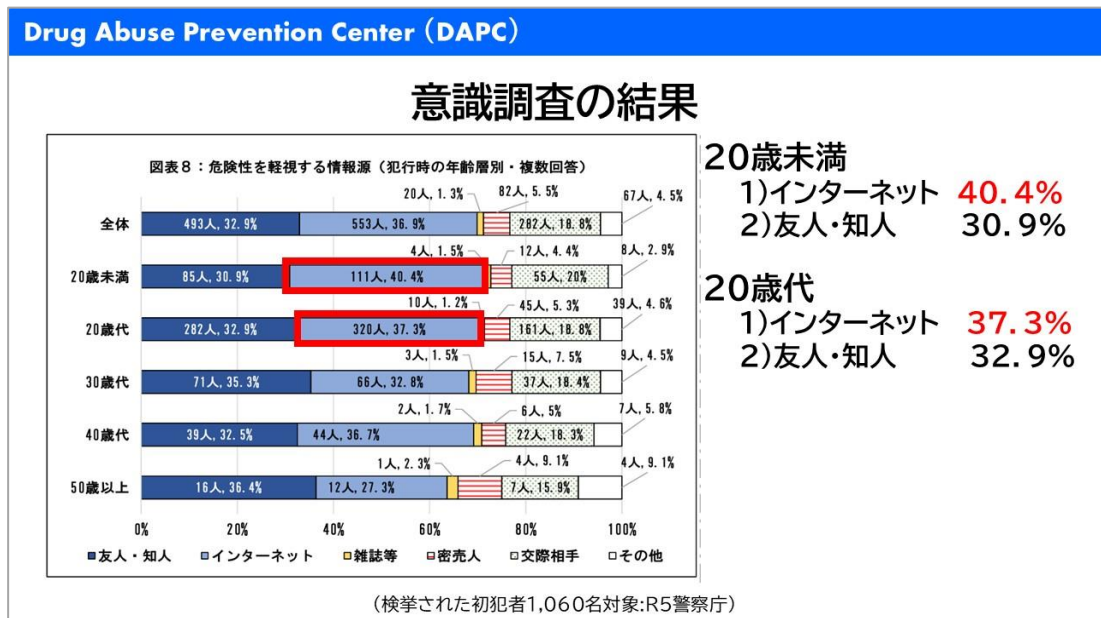
## 意識調査の結果（大麻及び覚醒剤に対する危険性の認識の比較）

一方で警察が行った意識調査の結果があります。これは昨年警察が大麻の単純所持で検挙した初犯者、1,060名を対象にした調査です。大麻及び覚醒剤に対する危険性の認識の比較ですが、大麻については危険との認識が全くないと答えている人が青色の34.6%、あまりないと答えているのが緑色の41.8%で、合わせて74.6%の人に危険との認識がなかったことが分かります。危険だ、大いに危険だと思っている人は、わずか14.3%の人だけです。ところが覚醒剤については、危険だと思っている人が31.3%、大いに危険だと思っている人が41.9%と、合わせて73.2%の人が危険であるとの認識を持っています。大麻については、認識が甘くなっているのが分かりますね。



## 意識調査の結果（危険性を軽視する情報源）

これは大麻の危険性を軽視する情報をどこから得たかを年代別に分けてあらわした表です。20歳未満では最も多いのが赤枠のインターネットです。インターネットにより軽視情報を得たのが40.4%、友人・知人からは30.9%です。20歳代では軽視情報をインターネットで得たと答えているのが、37.3%、友人・知人からが32.9%です。情報源の一つである友人・知人もおそらくは、インターネットで得た軽視情報を周りに拡散しているものと思われます。



## インターネット上では・・・

さて、インターネット上にはどんな情報が載っているかといいますと、これは一例ですが、「大麻が合法化されている国がある。本当は、大麻は安全。」といった話や「大麻が医療に使われている。大麻は安全だし身体に悪影響を及ぼさない。依存性もない。」といった話、さらには、国連が大麻を厳しい規制がかかるモルヒネなどの医療用麻薬と同じように医師の指示のもとに医療用途に使えるようにしたことを曲解して、「国連は大麻の規制を緩めた、世界の流れは解禁に向かっている。今なお厳しく規制している日本は時代遅れ。」などといった話です。このような誤った情報をそのまま鵜呑みにしていることが、若い世代の大麻乱用増加に拍車をかけていることが多分に言えると思います。

意識調査自体は30歳未満の若い世代を対象にしたものではありませんが、着実に増え続けている若い世代の検挙者についていえば、その多くが中学校や高校で大麻を含めて薬物の危険性について学んでいるはずですが、しかし今や、こと大麻に関しては、インターネット上でそれを打ち消す情報が氾濫し、それを信じ込まされているといった印象を受けます。正しい情報をいかに意識の中に残るように伝えていくか、これが我々の課題であると考えております。

**手押し専門店** @1189ice420

何でもあります  
東京、埼玉、千葉で手押し営業中

g → 5000円  
g → 20000円  
セット1回分 → 10000円  
コーク g → 5000円  
アシッド 1枚 → 5000円

詐欺、混ぜ物なし  
品質、対応の早さに自信あり  
ご新規様でも安心して取り引きできます  
詳しくはテレグラへ df8910

#東京手押し #埼玉手押し #千葉手押し  
#氷 #アイス #野菜 #罰

厚生労働省をはじめ各地区や警察でもインターネットを利用した薬物犯罪に注意するよう呼びかけている（画像は千葉県警察のホームページから）

## Drug Abuse Prevention Center (DAPC)

## インターネット上では・・・

○大麻が合法化されている国がある。

⇒**大麻は安全！**

○大麻は医療に使われている。

⇒**大麻は安全！依存性もない！**

○国連は大麻の規制を緩めた。

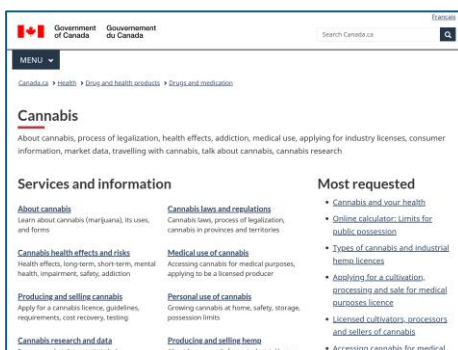
⇒**世界の流れは解禁に向かっている！**

※誤情報が拡散されている

大麻が合法の国があるから、大麻は安全とありますが、確かに現時点ではカナダやウルグアイなどは嗜好用の大麻を合法化しています。アメリカにおいてもワシントンDCほか24の州で合法化されています。しかしどの合法化されている国においても、地域においても、大麻が安全だと宣言しているところは一つもありません。合法化している国、地域にはそれぞれに事情があります。例えばカナダは2018年に合法化されましたが、カナダ政府によれば、それまでのカナダでは、大麻の乱用が広がり、取り締まりが限界に達していることや、大麻の不正取引でマフィアが多額の収益を得ていること、未成年者であっても金さえ出せば容易に大麻を買えること等から、

- ・闇市場での密売やマフィアへの資金流入を防ぐため
- ・未成年者の大麻使用を防ぐため
- ・大麻の生産・販売等を政府主導で管理するため
- ・大麻に課税することで国の財源を強化するため

等の理由で合法化に踏み切りました。合法化されていても、今なお未成年者に大麻を売ったりすれば最高で14年以下の重い罰則が科せられます。ですから合法化の国があると言っても、そこには事情があり合法化に踏み切っただけで、決して大麻が安全だと言っているわけではありません。また、嗜好目的の大麻を合法とすることは条約違反になります。当センターとしては今後の国際社会の動きを注視したいと思います。



参考) 大麻に関する規則等が掲載されているカナダ政府のウェブサイト

<https://www.canada.ca/en/health-canada/services/drugs-medication/cannabis.htm>

センターでは、若い世代が誤った情報を鵜呑みにすることがないように、今後も啓発の仕方をさらに考えながら、正しい情報をしっかりと皆さんに伝え、薬物乱用の未然防止に努めて参りたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い致します。



## 特集

### 令和6年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動

厚生労働省、都道府県、（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催し、国際連合薬物・犯罪事務所、警察庁など関係省庁の協賛及びボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、ロータリークラブなどの民間団体後援のもとに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及びその一環としての「6・26ヤング街頭キャンペーン」が、6月24・25日を中心に約1ヵ月間、各都道府県ごとに、地域の実情に配慮した上で実施されました。

本普及運動は、国内における薬物乱用防止活動において官民一体となり、国民一人一人の薬物乱用問題に関する意識を高めるとともに国連総会決議に基づく「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図ることにより、内外における薬物乱用防止に資することを目的としています。

この普及運動と並行して、（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、麻薬乱用防止活動に従事する開発途上国における民間団体の活動資金を国連を通じて支援するための「国連支援募金」運動を実施し、本年も全国から善意の浄財が集まりました。

また同期間中には、各種業関係団体、理・美容、クリーニング、浴場、飲食業等の各環境衛生同業組合等のご協力により、店頭でののぼり、ポスター掲出による啓発、募金運動などを行なう「地域団体キャンペーン」も地域の実情に沿った運営方式により実施されました。

以下、都道府県ごとの啓発活動の取り組み状況をご報告いたします。

#### 『「ダメ。ゼッタイ。」普及運動』におけ街頭キャンペーン・厚生労働大臣メッセージ

今日、大麻をはじめとして覚醒剤、麻薬などの薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

これらの薬物を乱用すると、自分の意志では止めることが極めて難しくなります。自らの体や心をむしばむだけでなく、家族や周りの人々にも大きな影響を与えるため、絶対に使用してはいけません。

令和五年の大麻の検挙者数は、過去最多を大きく更新し、統計を開始して以降、初めて覚醒剤の検挙者数を上回るなど、非常に高い水準です。とりわけ、若年層の大麻乱用が顕著で、大麻の検挙者数の七割以上を三十歳未満が占めています。

SNS等では、「大麻は身体に害がないから安全」といった誤った情報や、大麻の密売を持ちかけるような投稿も依然として多く見受けられます。しかし、大麻は決して安全ではなく心身に影響を及ぼすものであり、特に若年期からの大麻乱用は脳等への障害や依存の危険性を高めることが懸念されています。このため、大麻の所持及び使用を規制するため、「大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律」が昨年十二月に成立いたしました。

薬物乱用から自分自身を守るためには、どんな人から誘われても、立ち止まって冷静に考えること、きっぱりと断る勇気を持つことが何よりも大切です。

皆様一人ひとりが、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただき、ともに薬物乱用の無い社会を作っていきましょう。

令和六年六月二十二日  
厚生労働大臣 武見 敬三



## 北海道・東北エリア

### 1:北海道



北海道薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、薬業関係団体会員、保護司、民生委員、警察官、市町村職員、保健所職員等が、地域の各種イベント等において、道民を対象に、覚醒剤や大麻等の薬物の乱用防止に関するチラシやポケットティッシュ等の啓発資材を配布。

とともに、のぼりやポスターを掲示し、薬物乱用防止への理解と協力についての呼びかけを実施。

道内の薬局、薬店、道の駅、温泉、スーパー、関係行政機関等の協力を得て、麻薬・覚醒剤等の乱用防止に関するリーフレット及びポスターの配布を行うとともに、協力団体の店頭でのポスター掲示や、一声運動、国連支援募金箱設置等の協力を得た。

全道179市町村で実施

北海道、北海道警察本部、北海道薬物乱用防止指導員連合協議会、北海道薬物乱用防止指導員各地区協議会(21地区)、ヤングボランティア(ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生、大学生等)、薬業関係団体、保護司会、青少年育成団体、関係行政機関等

参加人員:約800人

### 2:青森



例年、青森市、弘前市、八戸市の3か所にて6・26ヤング街頭キャンペーンとして、通行人等に対し啓発用パンフレット、バンソウコウ等の配布をするとともに薬物乱用防止の呼び掛けを行い、併せて「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行っている。

青森市:青森市(ドリームタウンアリー)(7月13日)

弘前市:さくら野百貨店弘前店(6月23日)

八戸市:八戸市中心街商店街 はちのへホコテン会場(6月30日)

青森県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会

協力団体:(一社)青森県薬剤師会、(一社)青森県医薬品登録販売者協会、(一社)青森県医薬品配置協会、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト、八戸学院光星高等学校、青森大学、青森県薬物乱用防止指導員青森・弘前・八戸地区協議会、青森市、八戸市、青森県

参加人員:214名 (青森市)53名、(弘前市)94名、(八戸市)67名

## 3：岩手



県内2会場にて、薬物乱用防止指導員等の協力のもと、一声運動、リーフレット等の配布により、薬物乱用防止啓発を行った。

県薬剤師会、県生活衛生同業組合等の協力店舗においてポスター掲示、薬物乱用防止の呼び掛けを行った。

その他、夏の高校野球岩手県大会会場内に啓発横断幕を設置し、広く県民に対し薬物乱用防止の普及啓発を行った。

県央保健所 6月22日、釜石保健所 6月22日

県央 イオンモール盛岡（盛岡市）、釜石 道の駅釜石仙人峠（釜石市）計2箇所

岩手県薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウト、県央保健所、釜石保健所

参加人数：計29人（県央8人・釜石21人）

## 4：宮城



各会場において、薬物乱用防止指導員、高校生ボランティアが中心となり、啓発資材（リーフレット・絆創膏等）の配布、募金活動等を実施したほか、のぼりやパネル、薬物標本等を展示し、薬物乱用防止への理解と協力を呼び掛けた。

また、一部会場のキャンペーン開会式では、高校生ボランティアがダメ。ゼッタイ。普及運動における大臣メッセージを代読し、大麻をはじめとする薬物乱用の無い社会を作り上げていく呼びかけを行ったほか、薬物乱用防止啓発訪問事業によるクイズパネルや的当てセットを活用して普及啓発を実施した。

その他にもダメ。ゼッタイ君の着ぐるみを使用し、イベント参加者の注意を引くことで、効果的な普及啓発を行った。県内68の後援団体に対してポスターを送付し、事業所への掲示等県民への啓発活動に協力を依頼した。薬物乱用防止指導員が地域の祭りにおいて普及啓発を実施したほか、学校を訪問し、ポスター等の普及啓発資材を配布し、普及啓発運動を行った。

イオン気仙沼店、JR岩沼駅周辺、古川まつり会場、イオンモール石巻、栗原市民まつり会場（イオン志波姫駐車場）、イオン富谷、SEASONS WALK フォルテ、イオンモール新利府北館、イオンタウン佐沼、陸上自衛隊仙台駐屯地 計10箇所

宮城県、薬物乱用防止指導員、食品衛生協会、高校生ボランティア、ライオンズクラブ、各地区薬剤師会、各市町村 等

参加人員：362名

## 5：秋田



県内9カ所で街頭キャンペーンを実施した。ヤングボランティア(高校生・大学生等)の協力を得て、駅などの公共施設、商店街、ショッピングセンター等において横断幕、のぼり等を活用しながら、「ダメ。ゼッタイ。」一声運動、厚生労働大臣メッセージ伝達、ポケットティッシュやリーフレットなどの啓発資材の配布、国連支援募金活動を実施した。

北秋田市ふれあいプラザ コムコムにおいて、令和5年度薬物乱用防止啓発ポスターコンテスト入賞作品の展示、啓発資材の配布を行った。

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動地域実行委員並びに薬物乱用防止指導員等の協力により、薬局や病院等にてポスターの掲示、リーフレットの配布、募金箱の設置、各団体の会合等での呼びかけ(趣旨の周知、募金への協力)、新聞広告による周知を行った。

秋田駅東西連絡自由通路ぼぼろーど(秋田市)6月25日、イオンスーパーセンター大館店(大館市)6月30日、美郷町立美郷中学校・秋田県立六郷高等学校(美郷町)7月4日、いとく鷹巣ショッピングセンター(北秋田市)7月6日、イオンスーパーセンター本荘店(由利本荘市)7月7日、イオンスーパーセンター横手南店(横手市)7月7日、秋田県立能代科学技術高等学校(能代市)7月10日、湯沢市文化交流センター(「第38回湯沢市ふれあい広場」会場内)(湯沢市) 7月14日、計9カ所

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 秋田県実行委員会、大館鹿角地域実行委員会、本荘由利地域実行委員会、鷹巣阿仁地域実行委員会、大曲仙北地域実行委員会、能代山本地域実行委員会、横手平鹿地域実行委員会、秋田周辺地域実行委員会、湯沢雄勝地域実行委員会

参加人員：155人

## 6：山形



6月21日にJR山形駅、22日に県内のショッピングモールにおいて、ヤングボランティア(高校生等)、薬物乱用防止指導員及び関係団体の協力を得て、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、リーフレット等の啓発資材の配布を行った。

6月20、25日に薬剤師会等の関係団体の協力を得て、県内主要駅において、主に通学中の高校生を対象に薬物乱用防止の呼びかけ及び啓発リーフレット、ティッシュ等の配布を行った、

39協賛団体にポスター、リーフレット、募金箱を送付し、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。

6月20日、21日、22日、25日

6.26ヤング街頭キャンペーン：JR山形駅、イオンモール三川、駅前街頭キャンペーン、JRかみのやま温泉、JR新庄駅、JR米沢駅、JR鶴岡駅、県内各保健所

県内各保健所

参加人員：76人



## 7:福島



「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中に、県内16市町村21ヶ所において6・26ヤング街頭キャンペーンを開催した。また、キャンペーン開会式の際に、ヤングボランティアが薬物乱用撲滅宣言を行った。

なお、各地区のキャンペーンでは、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体の協力を得て、JR駅前、ショッピングセンター等においてリーフレット、ポケットティッシュ、風船などを配布しながら薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが中心となり、国連支援募金活動を実施した。

関係行政機関、企業、薬局等の協力を得て、ポスター掲示やパンフレット配布を行い、また、国連支援募金活動を通じて一般住民等への啓蒙活動を行った。全国高等学校野球選手権福島大会が実施されている3カ所の球場に横断幕【薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」】を掲示し、啓発を図った。

福島市、伊達市、二本松市、郡山市、田村市、須賀川市、石川町、白河市、棚倉町、鮫川村、会津若松市、喜多方市、会津美里町、南会津町、相馬市、いわき市 計16市町村21ヶ所

県、県薬物乱用対策推進本部、「ダメ。ゼッタイ。」県普及運動実行委員会、各地区薬物乱用防止指導員協議会(県内16地区)、関係団体、ヤングボランティア(中学生、高校生、専門学校生、ボーイスカウト、ガールスカウト等)

参加人員：911名

## 【北海道・東北エリアでのキャンペーンの様子】



## 関東エリア

### 8：茨城



県内13カ所で、薬物乱用防止指導員が中心となり、中学生のヤングボランティアに加え、薬事関係団体、ライオンズクラブ、青少年育成協会、市町村、警察等の協力を得て、街頭において、リーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。併せて、国連支援募金活動を行った。また、各地区において広報誌等を利用して地域に根ざした啓発活動を効果的に実施した。

県内の薬局等の薬事関係施設、理・美容所、旅館等の生活衛生営業施設、食品関係施設、病院・診療所、大学・専門学校等約3,000の店舗・施設の協力を得て、ポスターの掲示やリーフレットの配布を実施した。併せて店頭等に募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。（計13か所）

夏季茨城県高等学校野球大会会場（4球場）において横断幕の掲示を行い、選手、来場者、ケーブルテレビやネット動画視聴者に対する啓発を行った。

また、県庁2階広報コーナーにおいて、薬物乱用防止啓発パネル及び薬物標本の展示を行った。大洗駅、県庁2階広報コーナーにおいて、啓発メッセージ動画の放映を行った。

参加人員：606名

### 9：栃木



県内5箇所において、上記団体を活動主体とし、薬物乱用防止の呼びかけ、啓発資材の配布、のぼりの設置及び国連支援募金活動を行った。

県公式ホームページやX(旧:Twitter)のほか、県政コーナーへのポスターの掲示や、県内の商業施設にリーフレットを配置し、薬物乱用防止の普及啓発を行った。

また、夏休み前の県内の小学5・6年生及び中高生全員を対象に、薬物乱用防止リーフレットを約14万部配布し、薬物に関する正しい知識の普及啓発に努めた。

ショッピングモールベルモール、東武日光線新鹿沼駅、JR 小山駅、佐野駅、オリオンスクエア

栃木県、宇都宮市、宇都宮市薬剤師会、栃木県医薬品登録販売者協会宇都宮支部、栃木DARC、栃木県麻薬協会、栃木県薬物乱用防止指導員、佐野市、佐野警察署、宇都宮市青少年巡回指導員

参加人員：67名



## 10：群馬



県内17ヵ所で、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体、警察関係職員、県職員、保健所及び保健福祉事務所職員、市町村職員等、合計473人が駅前やショッピングセンター、高校等において、薬物乱用防止啓発リーフレット、大麻乱用防止啓発リーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布しながら薬物乱用防止を呼びかけた。

地域団体キャンペーンとして、薬局や飲食店、理容店、クリーニング店、旅館等の協力を得て、ポスターの掲示及び一声運動を実施し、併せて店頭で募金箱を設置してもらい国連支援金募金活動への協力を呼びかけた。

7月6日から27日までの期間、第106回全国高等学校野球選手権群馬大会が実施された上毛新聞敷島球場及び高崎市城南野球場に「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕を掲出した。

6月29日にザスパクサツ群馬の試合会場にて、群馬県警察本部と合同で、来場者に対し薬物乱用防止啓発を実施した。

前橋地区(JR前橋駅、JR新前橋駅、)、高崎地区(JR高崎駅西口、JR高崎駅東口ペDESTリアンデッキ)、渋川地区(JR渋川駅)、伊勢崎地区(スマーク伊勢崎)、安中地区(新島学園中学校・高等学校)、藤岡地区(JR群馬藤岡駅)、富岡地区(上信電鉄上州七日市駅、富岡製糸場)、吾妻地区(吾妻中央高校)、利根沼田地区(JR沼田駅)、太田地区(新田ショッピングセンターニコモール、ジョイフル本田新田店)、桐生地区(JR桐生駅前)、館林地区(東武鉄道館林駅、東部鉄道東小泉駅) 計17ヵ所

参加人員：473人

## 11：埼玉



駅頭等において、のぼり等を掲示するとともに、リーフレット、ポケットティッシュ及びうちわ等の啓発資材を配布した。

関係団体の店頭等にポスター掲示及び募金箱設置を行い、国連支援募金の呼びかけを行った。

県広報誌や市町村広報紙等の様々なメディアを活用し、薬物乱用防止の広報を実施した。また、県内の学校や関係団体・企業へリーフレットを配布し、国連支援募金の呼び掛けを行った。

イオンモール川口前川店、北朝霞駅、朝霞台駅、越谷市民球場、草加朝顔市会場、大宮駅、東松山駅、坂戸駅、北坂戸駅、若葉駅、西武ベルーナドーム、加須駅、行田市教育文化センター、久喜提燈祭り会場、熊谷うちわ祭会場、本庄祇園まつり会場、秩父地方庁舎、秩父あめ薬師縁日会場 計17箇所

埼玉県、埼玉県薬物乱用防止指導員連合協議会、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動埼玉県実行委員会、埼玉県警察本部、埼玉県教育委員会、各市町村、(一社)埼玉県薬剤師会、ライオンズクラブ330-C地区、日本ボーイスカウト埼玉県連盟など

参加人員：約500人

## 12：千葉



県内17ヶ所において、各薬物乱用防止指導員地区協議会が中心となり、警察署、市町村の関係機関やライオンズクラブ、ロータリークラブ等の関係団体及びボーイスカウト、ガールスカウト等のヤングボランティアの協力を得て、うちわ、ポケットティッシュ、リーフレット等啓発資材の配布し薬物乱用防止を訴えた。

医師会、歯科医師会、薬剤師会、薬業会、理美容組合、クリーニング組合、不動産関係団体等の協力を得て、関係施設にポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し、薬物乱用防止を訴えた。

県ホームページ、ラジオCM、テレビCM、新聞等の媒体を通じて薬物乱用防止を訴えた。

勝浦市、市原市、習志野市、銚子市、松戸市、柏市、館山市、鴨川市、市川市、佐倉市、千葉市、船橋市、香取市、木更津市、野田市、我孫子市、茂原市 計 17 箇所

千葉県、千葉県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、千葉県薬物乱用防止指導員協議会

参加人員：445人

## 13：東京



関係行政機関及び民間団体等にリーフレット及びポスターの配布を行うとともに、協力団体の店頭でのポスター掲示及び国連支援募金箱の設置等の協力要請を行った。また薬物乱用防止啓発ブースを設置し、来所者に対し薬物乱用防止を訴えた。

都ホームページ、都広報誌などのメディアや、繁華街の街頭ビジョン、X及びYouTubeで啓発動画を放映し、主に若年層に対して薬物乱用防止を訴えた。

6・26国際麻薬乱用撲滅デー」都民の集い(東京ドームシティ ラクーアガーデンステージ)

(1)啓発リーフレット・グッズ配布(2)国連支援募金活動(3)着ぐるみ(「ダメ。ゼッタイ。」君、ピーポくん)による啓発活動(4)クイズラリー・的あてゲーム

東京都、東京都薬物乱用対策推進本部、東京都薬物乱用防止推進協議会、厚生労働省、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター 共催：文京区、警視庁)

参加人員：約500人



## 14：神奈川



薬物クリーンかながわ推進会議が中心となり、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の実施期間中に県内各地において、各関係機関・団体及び市町村にポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

特に、7月3日に横浜駅東口において、関係団体等の協力を得て「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーンを実施した。着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ。」君も駆けつけ、リーフレット等の啓発資材の配布による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、横断幕やポスターを活用し、普及啓発を行った。なお、当日の様子はケーブルテレビで紹介された。

その他、県内大学において学生向けの情報提供を目的に開設しているサイトを活用し、県内の大学生に向けて薬物乱用防止を呼び掛けた。

横浜駅東口等

県薬剤師会、神奈川県、薬物クリーンかながわ推進会議(薬物乱用防止指導員協議会、麻薬等薬物相談員会、横浜税関、県内関係機関等182団体)、市町村、教育委員会、県警察本部等

参加人員：約2,000名(横浜駅東口)

## 【関東エリアでのキャンペーンの様子】



## 中部エリア

### 15：新潟



県内11会場において、ヤングボランティアや薬物乱用防止指導員等各関係団体の協力を得て、リーフレットなどの啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。また、同時に国連支援募金も行った。

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間(6/20～7/19)に合わせて、新潟県警察ノードラッグ大使のヴァーチャルユーチューバー(VTuber)「越後屋ときな」さんからいただいたメッセージ動画をYouTube広告や駅構内のデジタル広告、サッカーJ1アルビレックス新潟の試合前広告等で配信した。

また、6月22日(土)に放送された新潟県情報番組「ほっとホット新潟」では、新潟県の「ダメ。ゼッタイ。」運動の取組について放送した。県庁構内や地域振興局等で薬物乱用防止啓発の横断幕やポスターを掲出するとともに、庁舎内の生協売店や金融機関等に国連支援に係る募金箱を設置し、来庁者等に対して啓発を行い、募金の協力を呼びかけた。

村上市、新発田市、三条市、長岡市、魚沼市、南魚沼市、十日町市、柏崎市、上越市、糸魚川市、佐渡市、新潟市 12市12カ所

新潟県、新潟県薬物乱用対策推進本部、新潟県薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア等

参加人員：約200人

### 16：富山



薬物乱用防止指導員、ボランティア団体等が、県下五会場(ショッピングセンター等)において横断幕やのぼりを掲示し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、リーフレット、ポケットティッシュの啓発資材を配布した。併せて、国連支援募金活動を実施した。

青少年が集うイベント(第106回全国高等学校野球選手権富山大会)において、会場での横断幕・ポスター掲示を行うとともに、場内放送及び啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。

また、富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会参加団体の協力を得て、店頭等でのポスターの掲示や啓発資材の配布を行うとともに、国連支援募金運動への協力を呼び掛けた。その他、交通広告を利用し、薬物乱用防止広報活動を実施した

富山市、高岡市、魚津市、滑川市、砺波市 計5市 5ヶ所

参加人員：約200人



## 17：石川



6.26ヤング街頭キャンペーンは6月23日実施予定であったが、大雨のため中止。

6月20日から7月19日までの期間、薬剤師会等の地域団体の協力を得て、薬局や生活衛生営業施設等にポスターを掲示して啓発を図るとともに、募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼び掛けた。

7月11日から開催された第106回全国高等学校野球選手権石川大会の期間中に、関係機関の協力を得て、横断幕・ポスターを掲示し球場に応援に来た学生ら若者に薬物乱用防止の啓発を行った。

県内高等学校1年生を対象にリーフレットやポケットティッシュ等の啓発資材を配布した。

県、警察本部、金沢市保健所、薬剤師会、保護司会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、ライオンズクラブ、更生保護女性連盟、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト等が参加

## 18：福井



県内6か所のショッピングセンター等で、ヤングボランティア（ガールスカウト、ボーイスカウト）、薬物乱用防止指導員が中心となって、啓発物（リーフレット、ティッシュ、風船等）の配布、ポスターやのぼり旗等を使用した街頭キャンペーンを実施し、薬物乱用防止の呼びかけおよび国連支援募金活動を行った。

病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店等の各関係機関・団体および市町に、ポスターの掲示および募金箱の設置を依頼し、薬物乱用防止の普及啓発と国連支援募金への呼びかけを行った。

6月24日から1週間、福井県庁1階ホールで薬物乱用防止啓発パネル展を実施した。また、キャンペーン期間に限らず、各学校の要望に応じて薬物乱用防止啓発パネル展および薬物乱用防止教室を実施し、若年層への薬物乱用防止について啓発を行った。

福井市、坂井市、大野市、越前市、敦賀市、小浜市 県内計6か所

参加人員：約200人



## 19：山梨



県内の4保健所単位の各地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、各関係機関・団体等の協力を得る中で、参加学生代表による「『ダメ。ゼッタイ。』普及運動」における厚生労働大臣メッセージの披露をはじめとした式典を開催した。

その後、参加学生やボーイスカウト等が中心となって、リーフレットその他の啓発資材の配布等による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、国連支援街頭募金活動を行った。

また運動期間中、各関係機関・団体や市町村役場等にリーフレットその他啓発資材等の配布を行うとともに、ポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

ショッピングセンター、道の駅等 合計5箇所

県、県薬物乱用対策推進本部、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、警察署、市町村、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、薬剤師会、保護司会、愛育会、学校、ボーイスカウト、ガールスカウト等

参加人員：約160人

## 20：長野



県下17ヶ所において、ボーイスカウト・ガールスカウトの青少年や、薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ・ロータリークラブ会員、保護司、業関係者、行政機関職員等587人が、通行人20,150人に啓発用のチラシやポケットティッシュ等を配布して薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。

また 病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店、理・美容所、クリーニング店、ホテル・旅館、公衆浴場、自動車教習所等約9,000施設において、ポスターの掲示、一声運動を実施した。

また、薬局・薬店約1,100店舗の店頭で募金箱を設置し、国連支援募金に協力した。

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動長野県実行委員会参画4機関・22団体

県、県薬物乱用対策推進協議会、地区薬物乱用対策推進協議会、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県医薬品卸協同組合、県製薬協会、県医薬品配置協議会、県保護司会連合会、県子ども会育成連合会、ライオンズクラブ国際協会334-E地区、国際ロータリー第2600地区、県ホテル旅館生活衛生同業組合、県美容業生活衛生同業組合、県クリーニング生活衛生同業組合、県理容生活衛生同業組合、県公衆浴場業生活衛生同業組合、日本ボーイスカウト長野県連盟、ガールスカウト長野県連盟

参加人員：587人

## 21：岐阜



JR岐阜駅前、ショッピングセンターなど県下12か所において、薬物乱用防止指導員をはじめとするボランティアが会場を訪れた方々に啓発資材(パンフレット、ティッシュペーパー)を配布し、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」を合言葉に薬物乱用防止を訴えるとともに、ボーイスカウト、ガールスカウトらが国連支援募金への協力を呼び掛けた。参加者は、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動ののぼり旗を掲げ、タスキや啓発用帽子を着用して積極的に活動した。

JR岐阜駅前会場では、キャンペーンキャラクター「ダメ。ゼッタイ。」君の応援も得て若者へのPRに努めた。

岐阜県薬物乱用対策推進本部を構成する各団体、県内各高等学校、大学等に対して、ポスターの掲示や募金箱の設置等の協力依頼を行った。

また、小学校、中学校、高等学校で開催している薬物乱用防止出前講座において、児童、生徒に対して、薬物に関する正しい知識、特に若年層の大麻乱用が顕著であること、薬物乱用防止について啓発を行った。

岐阜県、岐阜市、郡上市、保健所、薬物乱用防止指導員地区協議会、県・市薬剤師会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協会、保護区保護司会、ボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、警察署 等

参加人員：6,300人

## 22：静岡



県内の主要な駅4カ所において、ポケットティッシュの配布やのぼり旗を掲出するとともに薬物乱用防止の声かけを行った。

各市町及び関係団体等の協力を得て、県内各所においてポスターを掲示するとともに、募金箱を設置して国連支援募金への協力の声掛けを行った。

6月26日にヤマハスタジアム(磐田市新貝2500)で開催されたJリーグサッカー試合会場(ジュビロ磐田 VS 東京ヴェルディ)において、①来場者にポケットティッシュの配布及び薬物乱用防止の声掛け、②試合会場に設置された電光掲示板において、県独自で制作した大麻乱用防止啓発動画(15秒)の発信、③ハーフタイム時に横断幕等による場内周回広報を行った。

- ・7月20日に静岡駅において、啓発活動を行った。(ティッシュペーパー及びうちわの配布)
- ・県内3局のケーブルテレビ局において「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のテロップ放送を実施した。
- ・県内新聞1紙に、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及び薬物乱用防止に関する記事を掲載した。
- ・保健所・商業施設等において、薬物乱用防止啓発パネル展示、ポスター掲示等を行った。

参加人員：88人(ヤング街頭キャンペーン参加者数)



## 23：愛知



名古屋市大須商店街において、ボーイスカウト、ガールスカウト、大学生及び愛知県警察本部と啓発資材を配布するとともに、薬物乱用防止の呼び掛けを行った。

また関係機関、協力団体等の協力を得て、県内のショッピングセンターや駅前等で薬物乱用防止の呼び掛けを行った。その他大相撲名古屋場所の会場(ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館))において、愛知県警察本部や東海北陸厚生局の職員等と啓発資材を配布するとともに、来場者に薬物乱用防止の呼び掛けを行った。

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中、プロ野球中日ドラゴンズ試合開催日のバンテリンドームナゴヤ及びレース開催日の名古屋競馬場で、場内放送や電光掲示板で薬物乱用防止の啓発メッセージを発信し、来場者に広く呼び掛けを行った。県庁や保健所等の県関係機関において、国連支援募金箱の設置を行った。

県立高等学校及び特別支援学校や保護司会等の協力団体に対してポスター掲示の協力依頼を依頼した

県内保健所、愛知県警察本部、東海北陸厚生局麻薬取締部、愛知麻薬協会、塩野義製薬株式会社、一般社団法人日本ボーイスカウト愛知連盟、一般社団法人ガールスカウト愛知県連盟、ライオンズクラブ国際協力334-A地区、愛知県保護司会連合会、愛知県更生保護女性連盟等

参加人員：およそ1,000名

## 今年度の啓発ポスター及びメッセージ動画

KADOKAWA DREAMS  
#4 観希(SATSUKI)

薬物乱用は  
ダメ。ゼッタイ。

薬物なんか  
必要ないでしょ?

D.LEAGUE

日本のプロダクション「D.LEAGUE」は  
ダンスを通じて健康的な未来を築いていくため  
「薬物撲滅運動」を宣言しています。

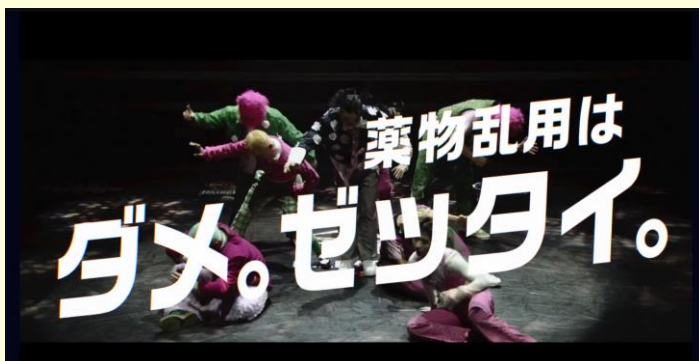
CyberAgent Legit  
#1 TAKUMI

厚生労働省/都道府県/  
(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター

6・26  
国際麻薬乱用  
撲滅デー  
The International Day Against Drug  
Abuse and Illicit Trafficking

国連支援募金

薬物でお困りの方は一人で悩まず相談を！ 厚生労働省 薬物 相談 検索



## 近畿エリア

### 24：三重



県内の主要駅、ショッピングセンターなどで薬物乱用防止指導員や薬物乱用防止指導啓発団体を中心に、三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等が官民一体となって、街頭キャンペーンを行った。

ポスターの掲示や薬物標本の展示、啓発DVDの放映、のぼり旗の掲揚とともに、高校生や県民にリーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用防止を訴えた。

他に、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と併せて、街頭募金を行い、国連支援募金への協力を呼びかけたほか、青少年がよく聞く時間帯に、FMラジオ放送による薬物乱用防止啓発のスポットCMを放送した。

三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等の協力を得て、ポスターの掲示、啓発資材の配布や一斉運動の実施、募金箱の設置等を依頼し、県内68ヶ所において薬物乱用防止の働きかけを行った。

参加人員：620人

### 25：滋賀



県内2か所のキャンペーン会場において、キャンペーン実行委員会が中心となり街頭啓発を実施した。当日、会場には「ダメ。ゼッタイ。」君、滋賀県イメージキャラクターのキャプフィーも参加した。各会場で、通行人に啓発資材のリーフレット、蛍光ペンを配布し、ボーイスカウト、ガールスカウトによる国連支援募金活動も併せて実施した。

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動啓発期間には、地域団体キャンペーンとして、病院、診療所、歯科診療所、薬局、薬店、ライオンズクラブ会員の施設等、地域団体の協力を得てポスターの掲示と一声運動を実施し、併せて店頭等に募金箱を設置して国連支援募金活動に協力した。

大津市(ランチ大津京) 東近江市(アル・プラザ八日市) 計2箇所

一般社団法人ガールスカウト滋賀県連盟、日本ボーイスカウト滋賀連盟、大津少年センター、東近江市少年センター、社会福祉法人大津市社会福祉協議会、社会福祉法人東近江市社会福祉協議会、社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会、一般社団法人滋賀県医師会、一般社団法人滋賀県歯科医師会、一般社団法人滋賀県薬剤師会、一般社団法人滋賀県薬業協会、滋賀県医薬品配置協議会、大津ライオンズクラブ、八日市ライオンズクラブ、滋賀県警察本部、滋賀県(薬務課・保健所)、他

参加人員：66人



## 26：京都



京都市内4箇所において、京都府・京都市・京都府警察関係者をはじめ、大学生、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウト等が薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。

府内各種関係団体に対し、店頭等でのポスターの掲示や募金箱の設置を依頼し、キャンペーンの周知と国連支援募金への協力呼びかけを行った。

また、府内各大学・専門学校等に対し、ポスター掲示を依頼し、若年層への薬物乱用防止の呼びかけを行った。

その他、各地区薬物乱用防止指導員により小中学校の児童等を対象とした薬物乱用防止教室及びリーフレットの配布が行われ、薬物の危険性を伝えると共に本運動の周知がされた。

京都市内4箇所(京都駅、四条河原町、四条高倉、三条河原町)

きょうと薬物乱用防止行動府民会議

参加人員：243名（啓発対象：約15,000人）

## 27：大阪



JR天王寺駅中央コンコースにおいて、府内大学生ボランティアの協力のもと、JR天王寺駅中央コンコースにおいて声掛け、啓発資材配布、構内アナウンスを実施し、薬物乱用防止を訴えた。

関係機関、協力団体・企業等の協力を得て啓発ポスターの掲示やリーフレットの配架等を実施するとともに、国連支援募金箱を設置することで、啓発並びに募金協力呼びかけを行った。また、7月の「少年非行・被害防止強調月間」に合わせて、イベント会場等においてポスター掲示、啓発メッセージ映像の放映、リーフレット・啓発物品の配布を行い、薬物乱用防止を訴えた。

府関係施設(情報プラザ等)でのリーフレット配架と府ホームページや、公式Facebook・X、市町村広報誌等を利用した運動の周知並びに啓発を図った。

JR天王寺駅中央コンコース 府内各地域

大阪府、大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、大阪府薬物乱用防止指導員協議会、関係行政機関、関係民間団体 等

参加人員：啓発者約2,000人 関係者12人



## 28：兵庫



県下12地区の薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、ボーイスカウト・ガールスカウト等のヤングボランティアや、ライオンズクラブ、警察署等の関係機関の協力を得て、県下14か所において街頭キャンペーンを実施した。

街頭キャンペーン実施に際しては、地域の利用の多い大型スーパー、利用者の多い「姫路駅」等の主要駅等、地域の実情に応じて、人が多く集まる場所を選定した。

キャンペーンでは、横断幕・のぼり・啓発パネルの掲出、兵庫県マスコット「はばタン」、兵庫県薬物乱用防止対策推進会議マスコット「まやタン」の着ぐるみの登場等により、啓発効果を高めた。

活動参加者は、啓発用のビブス、タスキ等を着用し、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」を合言葉に、通行人等に対してリーフレット、ウェットティッシュ、ポケットティッシュ等のオリジナルの啓発資材を配布し、薬物乱用の害や危険性を訴えるとともに、国連支援募金活動を行った。

参加人員：495人

## 29：奈良



6月30日(日)にイオンモール橿原1階 久世福商店前にて、「6・26ヤング街頭キャンペーン」を開催した。奈良県警察本部少年課の学生ボランティアである少年フォローズ奈POLIを中心に、薬物乱用防止指導員、警察関係者等の協力のもと、啓発物品(リーフレット・啓発用ティッシュ)を配布しながら薬物乱用防止運動を行った。なお、この活動については地元テレビの取材・報道がなされた。

あわせて、薬物標本の展示、薬物に関するクイズラリー・的当てを実施し、親子連れを中心に多くの方に薬物に関して考えてもらう契機となった。

イオンモール橿原1階 久世福商店前

奈良県、奈良県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、奈良県薬物乱用対策推進本部、奈良県警察本部、奈良県教育委員会、ライオンズクラブ国際協会335-C地区8R、奈良県製薬協同組合、奈良県家庭薬配置商業協同組合、(一社)奈良県薬剤師会、(一社)奈良県医薬品登録販売者協会、奈良県毒物劇物取扱者協会、奈良県家庭薬卸協同組合、奈良県医薬品卸協同組合、奈良県医薬品配置協議会、奈良県歯科用品商組合、奈良県薬事団体連合会 等

参加人員：1,000人





## 中国・四国エリア

### 31：鳥取



鳥取県薬物乱用防止指導員地区協議会の会員、高校生のヤングボランティア等が中心となって、県内3地区で、ヤング街頭キャンペーンを実施し、地区住民に対し、国連支援募金活動及び啓発活動を実施した。

また、街頭キャンペーン実施前に高校生ボランティアへ薬物乱用防止についての研修を行うなど、若者に対する啓発にも力を入れた。

その他、「子ども向け薬物乱用防止リーフレット」を作成し、県内の関係機関や学校へ配布した。

各団体はもとより、各市町村及び県庁並びに県地方機関等にもポスター、募金箱等を送付し啓発に努めた。また、国連支援募金への協力依頼を実施した。

イオン鳥取北店 倉吉未来中心ふれあい広場 イオンモール日吉津

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動鳥取県実行委員会、鳥取県、鳥取県警、鳥取県薬物乱用防止指導員協議会、ヤングボランティア

参加人員：計59人(鳥取市)18人 (倉吉市)23人 (米子市)18人

### 32：島根



県内6箇所、カブスカウト・ボーイスカウト・小学生・中学生等のヤングボランティアのほか、ライオンズクラブ・薬物乱用防止指導員・各関係機関の協力を得て街頭キャンペーンを実施した。各参加者は、ショッピングセンター等で薬物乱用防止の呼びかけを行い、啓発資材の配布を行った。

市町村、警察署、医療機関、薬局等の協力によりポスターの掲示やリーフレット等啓発資材の配布を行ったほか、各機関の窓口へ募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた

松江市、雲南市、大田市、浜田市、益田市、隠岐郡隠岐の島町 計6箇所

島根県、カブスカウト、ボーイスカウト、小学生・中学生のヤングボランティア、ライオンズクラブ、薬物乱用防止指導員等

参加人員：196人

## 33：岡山



「覚醒剤等薬物乱用防止指導員各地区協議会(県下9地区)」が中心となり、JR駅前、高等学校等県下14箇所において「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用啓発資材(パンフレット、ウェットティッシュ、ボールペン等)を配布するとともに、覚醒剤等薬物乱用防止を呼びかけ、併せて国連支援募金を実施した。また、高校生ボランティアの積極的な協力があった。

## [参加学校]

関西高等学校、岡山商科大学附属高等学校、備前緑陽高等学校、和気閑谷高等学校、就実高等学校、倉敷翠松高等学校、総社南高等学校、笠岡高等学校、笠岡商業高等学校、

岡山龍谷高等学校、鴨方高等学校、おかやま山陽高等学校、勝間田高等学校、林野高等学校、高梁城南高等学校、方谷學舎高等学校、新見高等学校、共生高等学校、真庭高等学校

関係機関の窓口等へ募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。

「覚醒剤等薬物乱用防止指導員各地区協議会(県下9地区)」管内

(岡山市、備前市、和気町、倉敷市、総社市、浅口市、笠岡市、津山市、勝央町、美作市、真庭市、高梁市、新見市)

県、県警察本部、保健所、県覚醒剤等薬物乱用対策推進本部、県覚醒剤等薬物乱用防止指導員協議会、同各地区協議会、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、同各支部等

参加人員：571名（指導員84名 高校生等231名 行政関係者89名 その他167名）

## 34：広島



薬物乱用防止の啓発物品を配布するとともに、募金活動を行った。各団体・地域のキャラクターの出動など、各地区で啓発・募金活動を盛り上げた。

また、大学生の「広島県ヤング薬物乱用防止指導員」にも参加してもらい、より幅広い世代へ薬物乱用防止を呼び掛けた。

計44の関係団体が店頭等へのポスターの掲示及び一声運動を実施した。

県内6か所(廿日市市、坂町、安芸高田市、三原市、福山市、三次市)

※3か所(広島市、東広島市、呉市)は中止となった。

広島県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会

参加人員：計335人

(ヤングボランティア136名、指導員67名、ヤング指導員2人、ライオンズクラブ会員43人、行政関係者58人、その他29人)



## 35：山口



県内各地の商業施設等において、ヤングボランティア及び山口県薬物乱用防止推進員地区協議会の会員等が中心となって、薬物乱用防止の呼びかけ、のぼりの設置、啓発資材の配布及び国連支援募金への協力を呼びかけた。

- ・県庁パネル展示コーナーにおいて、薬物乱用防止啓発に係るポスターの入選作品を展示し、啓発資材を配布した。
- ・各市町、各種関係機関・団体等の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のポスターの掲示を行うとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。

光市、岩国市、柳井市、熊毛郡平生町、宇部市、山陽小野田市、萩市等 計8箇所

山口県薬物乱用防止推進員地区協議会、山口県健康福祉部薬務課

参加人員：約210人

## 36：徳島



県内6地区の薬物乱用防止地区協議会を活動主体として、薬物乱用防止指導員のほか、高校生をはじめとしたヤングボランティア、各警察署、ライオンズクラブ等の関係機関・関係団体の協力を得て、ヤング街頭キャンペーンを実施した。

量販店等の人が集まる場所をキャンペーン会場として、薬物乱用防止を訴える横断幕、のぼり等を掲げ、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。国際協力で薬物乱用をなくしましょう。」を合い言葉に、来場者等に対して啓発用パンフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を訴えた。

また、「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行った。

薬物乱用防止地区協議会及び薬物乱用防止指導員を活動主体として、県内市町村役場、各事業所、店舗等の協力を得て、ポスター等を掲示した。

島市、阿南市、海陽町、吉野川市、つるぎ町、三好市

6地区7県、県薬物乱用防止協議会(県下6地区協議会)、ヤングボランティア(中・高校生)等

参加人員：242名（薬物乱用防止指導員 82名ヤングボランティア 87名その他 73名）

## 37：香川



県下4カ所の薬物乱用防止対策連絡協議会が中心となって、市町、警察署、ライオンズクラブ、その他医療・衛生関係機関等の協力を得て、県内の各施設において募金箱の設置やポスターの掲示を行った。

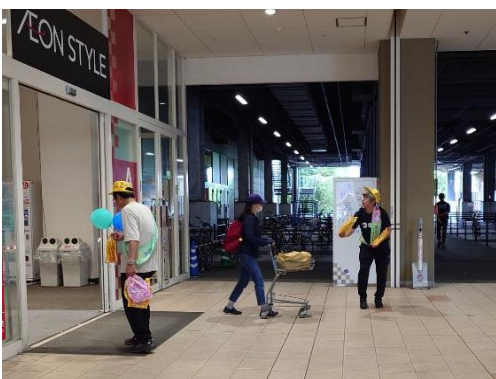
街頭での啓発活動としては、駅前や公園等で、チラシやポケットティッシュ、リーフレット等の啓発資材を配布したり、商店街でパレードを行いながら資材の配布を行ったりすることで、薬物乱用の恐ろしさを訴えた。

高松丸亀町壱番街前ドーム～田町交番前、JR高瀬駅前 イオンモール綾川、こどもさくら公園 計4箇所

香川県、各保健所薬物乱用防止対策連絡協議会、香川県麻薬・覚醒剤・シンナー禍対策推進員、市町、警察署、保護観察所、税関支署、海上保安署、ライオンズクラブ、BBS会、少年育成センター、更生保護女性会、保護司会、薬剤師会、小学生、中学生、高校生、教員 等

参加人員：約1,650～1,700人

## 38：愛媛



本年度は、高校野球選手権地方大会、イベント会場、商業施設等で街頭キャンペーン、関係施設において薬物乱用防止啓発用パネル展示会を実施した。

それぞれの活動において、リーフレットやうちわ、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、若年層を含め幅広い世代の県民に薬物乱用防止を呼びかけた。

四国中央市、新居浜市、今治市、松山市、八幡浜市、宇和島市 計6箇所

愛媛県、愛媛県薬物乱用防止指導員協議会(愛媛県保護司会連合会、ライオンズクラブ、愛媛県薬剤師会、愛媛県薬業協会、愛媛県少年警察ボランティア協会、愛媛県配置薬協会、愛媛県ジェネリック販社協会、愛媛県登録販売者協会)

参加人員：141人(主催者側)

39：高知



各地区の薬物乱用防止推進協議会が中心となり、ヤングボランティア等の協力を得てパレード等の街頭キャンペーンを実施。リーフレットや啓発グッズの配布、国連支援募金の呼びかけを行い、薬物乱用の恐ろしさを周知するとともに、薬物乱用防止を訴えた。

高知市地区においては、市内商店街アーケードで地元の中・高等学校バトン部・吹奏楽部を先頭にヤングボランティア、薬物乱用防止推進員、関係行政機関職員による啓発パレードを行った。

他の地区においても、地元中学校吹奏楽部の演奏等による啓発イベントの実施や、量販店、夏祭り会場での啓発グッズ配布と国連支援募金の呼びかけを行った。

各地区の薬物乱用防止推進協議会が中心となり、各市町村庁舎や駅など人が多く集まる場所へのポスター掲示や、啓発グッズの配布を行った。

また、地域毎で実施する「社会を明るくする運動」キャンペーンに参加し、地域住民に対して薬物乱用防止の啓発を行った。

高知県、高知県薬物乱用防止推進連合協議会、東部・中央東・高知市・中央西・高陵・幡多の各地区薬物乱用防止推進協議会、ヤングボランティア(ボーイスカウト、小～高校生)、民生委員、保護司、ライオンズクラブ会員、関係行政機関職員

参加人員：361人(うち、ヤングボランティア145人)

今年度の活動はウェブサイトでもご紹介しています

**公益財団法人 麻薬・覚せい剤乱用防止センターの取組み**  
薬物乱用未然防止活動

普及啓発活動

- 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動
- 2024年度普及運動の開催
- 麻薬・覚せい剤・大麻乱用防止運動

指導育成活動

- 薬物乱用防止教室の開催について/講師派遣について

国際協力活動

- 「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動
- UNODCへの寄付
- 麻薬委員会サイド・イベント
- 2024年
- 2023年
- 2022年

調査研究活動

- 2023年度研究活動

広報活動

- 広報誌「ニュースレター」最新号
- キャンペーンガスター一覧

医療用麻薬適正推進活動

- がん疼痛緩和のための医療用麻薬適正推進協議会
- お知らせ
- 開催日程・申込受付

啓発資料のお申込

寄付のお願い

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動(令和6年6月20日~7月19日)  
~2024年度普及運動の実施について~

厚生労働省 報道関係者各位 (6月5日)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000211828\\_00010.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000211828_00010.html)

令和6年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動は6月20日からスタートします。6月26日は国連の「国際麻薬乱用撲滅デー」(\*)です。これを臨まえ、厚生労働省、都道府県および(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、6月20日(木)から7月19日(金)までの1カ月間、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を実施します。この運動は、国民一人一人の薬物乱用問題に関する認識を高めるため、正しい知識の普及、広報啓発を全面的に展開するもので、平成5年から毎年行っています。

日本における薬物問題は、大麻の被害者数が急激に増加しており、令和5年の大麻薬犯被害者数も過去最多を更新するとともに、被害を拡大して以降初めて覚せい剤初犯被害者数も過去最高水準を維持しています。特に、若年層の大麻乱用が顕著で、30歳未満が大麻被害者数の約1割以上を占めています。よって、増加の一途をたどる若年層の大麻の乱用防止に重点を置きつつ、身近な人も含む、薬物乱用が疑われる時は、一人ひとりが近隣の相談窓口(※)で相談するよう促し、適切な治療・支援につながるよう啓発していきます。厚生労働省、都道府県、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、警察庁をはじめとする関係機関や日本国民営快進協会などの民間団体と協力呼びかけ、官民一体となった薬物乱用防止普及運動を積極的に展開していきます。

令和六年六月二十日  
厚生労働大臣 武見 敏三

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動における街頭キャンペーン、厚生労働大臣メッセージ

今日、大麻をはじめとした覚せい剤、麻薬などの薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

これらの薬物を乱用すると、自分の意思では止めることができず、身体的なダメージや精神的な苦痛をもたらすだけでなく、他人に被害を及ぼす恐れがあります。

令和5年の大麻の被害者数は、過去最多を更新し、また覚せい剤の被害者数も過去最高水準を維持しています。特に、若年層の大麻乱用が顕著で、30歳未満が大麻被害者数の約1割以上を占めています。よって、増加の一途をたどる若年層の大麻の乱用防止に重点を置きつつ、身近な人も含む、薬物乱用が疑われる時は、一人ひとりが近隣の相談窓口(※)で相談するよう促し、適切な治療・支援につながるよう啓発していきます。厚生労働省、都道府県、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、警察庁をはじめとする関係機関や日本国民営快進協会などの民間団体と協力呼びかけ、官民一体となった薬物乱用防止普及運動を積極的に展開していきます。

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動は、過去最多を更新した令和5年の大麻の被害者数を大きく更新し、また覚せい剤の被害者数も過去最高水準を維持しています。特に、若年層の大麻乱用が顕著で、30歳未満が大麻被害者数の約1割以上を占めています。よって、増加の一途をたどる若年層の大麻の乱用防止に重点を置きつつ、身近な人も含む、薬物乱用が疑われる時は、一人ひとりが近隣の相談窓口(※)で相談するよう促し、適切な治療・支援につながるよう啓発していきます。厚生労働省、都道府県、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、警察庁をはじめとする関係機関や日本国民営快進協会などの民間団体と協力呼びかけ、官民一体となった薬物乱用防止普及運動を積極的に展開していきます。



<https://dapc.or.jp/2020fukyuru6index.html>



## 九州・沖縄エリア

## 40：福岡



大雨で中止となった1箇所を除き、県下延べ12箇所において、各協力団体・関係機関のボランティアの参加を得て、のぼり・横断幕を掲げ、啓発資材の配布を実施した。

また、当該期間中、大麻乱用防止啓発動画のYouTube広告や、博多駅、キャナルシティ博多などのデジタルサイネージへ掲載を行ったほか、県庁庁舎やアビスパ福岡のホームスタジアムへの横断幕掲示、LINEやX、ラジオ番組による「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の告知を行い、県民に広く周知した。

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中、各市町村、関係団体等に対しては、啓発用ポスターの掲示や国連支援募金箱の設置等の協力を依頼した。

福岡県内一円／福岡市、久留米市、その他保健福祉(環境)事務所(筑紫、粕屋、糸島、宗像・遠賀、嘉穂・鞍手、田川、北筑後、南筑後、京築) 計12箇所

福岡県、県薬物乱用対策推進本部、ライオンズクラブ国際協会337-A地区、福岡県麻薬協会、(公社)福岡県医師会、(公社)福岡県歯科医師会、(公社)福岡県薬剤師会、(一社)福岡県医薬品登録販売者協会、福岡県医薬品卸業協会、(公社)福岡県医薬品配置協会、(公社)福岡県製薬工業協会、福岡県医療機器協会、福岡県保護司会連合会、福岡県更生保護女性連盟、福岡県BBS連盟、日本ボーイスカウト福岡県連盟、(一社)ガールスカウト福岡県連盟

参加人員：451名

## 41：佐賀



商業施設や駅周辺等において、高校生やボーイスカウト、ガールスカウト等のヤング、及び関係機関、協力団体の参加を得て、リーフレット、標語入ポケットティッシュなどの啓発資材を配布し、一声運動により通行人等に薬物乱用防止を訴えたとともに、国連支援募金を実施した

各協力団体、市町、県警本部、県庁各機関等において、ポスターの掲示による啓発や募金箱の設置により国連支援募金活動を実施した。

佐賀市、唐津市、鳥栖市、伊万里市、鹿島市 計7箇所

佐賀県、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬剤師会、保護司会連合会、少年補導員連絡協議会、地域婦人連絡協議会、高等学校、ライオンズクラブ、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト、警察署等

参加人員：454人

## 42：長崎



県、薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、関係機関・民間団体等の協力を得て、県下10か所において実施した。人が多く集まるアーケード・大型店舗等を会場として、薬物乱用はダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、通行人、買物客等に対し、啓発資材(リーフレット・ポケットティッシュ等)を配布するとともに国連支援募金への協力を行い、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。

各団体の協力を得て関係施設に啓発用ポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し募金活動に協力した。また、県庁舎に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。

その他の団体等のイベント開催に併せ、啓発資材の配布などを行った。青少年への啓発活動として5月31日に開催された県高校総体開会式会場において、「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕の掲示を行い来場者に対する啓発を行った。全国高校野球選手権長崎大会会場(長崎市、佐世保市)において、「ダメ。ゼッタイ。」普及横断幕を設置し、来場者に対する啓発を行った。また、県内自動車学校等若者が多く集まる場所でポスターを掲示し、チラシを設置した。

長崎市、佐世保市、壱岐市、諫早市、佐々町、五島市、新上五島町、島原市、時津町、対馬市  
合計7市3町10か所

長崎県、長崎県薬物乱用防止指導員協議会、長崎県警察本部、長崎県薬剤師会等

参加人員：10,105人

## 43：熊本



熊本市及び県下保健所管内の地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、大型商業施設等において、小・中・高校、ボーイスカウト及びガールスカウト等のヤングボランティア、薬物乱用防止指導員、県職員、税関職員、県警職員、教育委員会及び市町村職員が、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合い言葉に街頭キャンペーンを実施し、啓発パンフレット、啓発資材等の啓発資材を配布するとともに国連支援募金への協力を呼びかけた。

県内各保健所、薬局・医薬品販売業者、病院、自衛隊駐屯地等の各種団体・機関において、ポスターの掲示による啓発及び国連支援募金への協力依頼を行った

熊本県、熊本県薬物乱用対策推進本部、熊本県薬物乱用防止指導員連合協議会、ライオンズクラブ国際協会337-E地区、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動熊本県実行委員会等

参加人員：318人



## 44：大分



本キャンペーンは県薬務室、各保健所等が県内 9 地域で、薬物乱用防止指導員、高校生、ボーイスカウト、ガールスカウト等のボランティア団体の協力を得て、盛大に行われた。参加者は、「ダメ。ゼッタイ。」たすきを着用し、ボールペン、絆創膏、パンフレット等啓発資材を通行人に配布し、街頭啓発を行うとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。

大分県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員や地域の団体、企業、店舗等の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」ポスターの掲示と同募金箱を設置した。また、交通量の多い大分市内2箇所歩道橋に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。

普及運動実施期間中、麻薬・覚せい剤乱用防止センター作成のメッセージ動画を県庁及び大分県信用組合各支店のデジタルサイネージ(県内38店舗)、大分県薬務室 HP にて放映した。また、6月29日(土)及び7月14日(日)に開催された大分トリニータホームゲームにおいて、レゾナックドーム大分の大型ビジョンにて放映した。

大分県、大分県警察本部、大分市保健所、大分税関支署、高校生、大学生、日本ボーイスカウト大分県連盟、ガールスカウト大分県連盟、ライオンズクラブ国際協会 337-B地区、大分県保護司会連合会、大分県薬剤師会、大分県少年警察ボランティア協会、大分県防犯協会、大分県公民館連合会、大分県医薬品登録販売者協会、大分県暴力追放運動推進センター、その他のボランティア団体

参加人員：計446人

## 45：宮崎



県庁内にて出発式を行い、高校生4名が厚生労働大臣メッセージを代読した。

続いて、参加者全員が啓発用タスキを着用し、横断幕とのぼり旗を持ち「薬物乱用は、ダメ。ゼッタイ。」と呼びかけながら、県庁から繁華街デパート前までの約1kmをパレードした。

その後、繁華街デパート前を中心にパンフレット等の啓発資材と国連支援募金活動を実施した。

関連団体等による国連支援募金活動を実施した。

宮崎県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会  
宮崎県薬物乱用防止指導員協議会 宮崎レオクラブ 宮崎フェニックスレオクラブ ガールスカウト  
宮崎市 宮崎県警 宮崎県

参加人員：約150人



## 46：鹿児島



6・26ヤング街頭キャンペーンを県、薬物乱用防止指導員各地区協議会を中心に関係機関・団体の協力を得て、大型店舗等において、啓発用リーフレット等を配布し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、国連支援募金活動を実施した。

後援団体等の協力を得て、募金箱の設置やポスターの掲示を行うとともに、地域で開催される各種集会・研修会等において啓発活動を展開した。

鹿児島県、鹿児島県薬物乱用対策推進地方本部、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動鹿児島県実行委員会、薬物乱用防止指導員各地区協議会

参加人員：約700人(主催者側)

## 47：沖縄



県内6ヶ所において、ヤングボランティア及び薬物乱用防止指導員等を中心にパンフレット等啓発資材を通行人に配布する街頭キャンペーンを実施するとともに、国連支援街頭募金を実施した。

期間中、街頭キャンペーン以外に次のことを実施した。

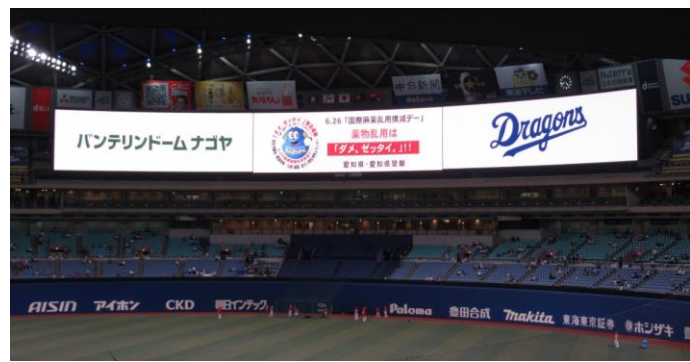
- ①地域団体キャンペーン
- ②国連支援募金
- ③市町村への協力呼びかけ  
(国連支援募金及びポスター等の掲示)
- ④県内各関係機関への普及・啓発依頼

那覇市、名護市、北谷町、糸満市、石垣市 宮古島市 計6箇所

沖縄県、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬物乱用防止協会支部、中学生、高校生、ガールスカウト、ボーイスカウト、その他関係機関・団体

参加人員：295人









## 日本から世界へ 全国から寄せられた「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金

1993年より「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と呼応して、薬物乱用のない社会環境づくりのために実施されています。全国からいただいた善意の浄財は、国連(国連薬物犯罪事務所)を通じて、開発途上国を中心に薬物乱用防止教育や指導者養成などNGOの支援プロジェクトに活用されています。

この国連支援募金で行われる様々なプロジェクトは、長年に渡り世界中でその足跡を残しています。

### ★支援プロジェクトの例



ナイジェリア



メキシコ



ウガンダ

## UNODCウェブサイトにおいてDAPC補助金プログラムとして告知されています

**DAPC GRANTS**

UNODC dapc

from Youth to Youth, for Youth

About the DAPC Grants Programme

Every year UNODC is able to promote drug use prevention and youth empowerment in many countries around the world. Thanks to the work and generous donation of the Drug Abuse Prevention Center (DAPC) based in Japan. The youth from DAPC mobilize communities and raise funds that they donate to UNODC to support youth-oriented activities to prevent drug use in low and middle income countries. This initiative is truly youth to youth, for youth.

Since 2012 every year UNODC has been awarding small grants to youth organizations working in low and middle income countries. The aim is to empower youth to take more action in supporting the health and wellbeing of their peers. Working with its partners and making innovative activities, small to medium youth groups working in prevention, health promotion, and youth empowerment in their activities.

Teachers and Youth in Bolivia

Mobilizing Youth in Nigeria

Family Ties Factors Communication

World Drug Day 2022

Increased Community Cohesion in Maldives

**DAPC GRANTS 2024**

**Call for Proposals**

Attention! New call for proposals for DAPC Grants Programme 2024

### [DAPC GRANT]

<https://www.unodc.org/unodc/en/prevention/youth-initiative/dapc-grant.html>



## 資料 1

## 大麻取締法の改正について

大麻取締法の内容が見直され、大麻（草）については、「麻薬及び向精神薬取締法」と「大麻草の栽培の規制に関する法律」の2つの法律で規制されます。これまで日本では大麻草から製造された医薬品を医療現場で使うことができませんでしたが、今後は使えるようになります。さらに、これまで大麻にはいわゆる使用罪がありませんでしたが、罰則が適用されることになります。

この使用（施用）も含め、所持、譲渡し、譲受け等については、大麻を麻薬の一つとして位置づけることにより、「麻薬及び向精神薬取締法」において規制されます。

また、これまで大麻草の栽培は、免許を有する者による繊維や種子を採取するための栽培のみが認められていましたが、今後は免許を有する者による医薬品の原料とするための栽培等も認められます。大麻草の栽培については、免許を有して正規に行うものも、不正に行うものも「大麻草の栽培の規制に関する法律」において規制されます。

この「麻薬及び向精神薬取締法」及び「大麻草の栽培の規制に関する法律」の施行日は、令和6年12月12日（※）です。

※大麻草の栽培等に関する規制の一部については、令和7年3月1日

詳しくは厚生労働省ウェブサイト ([https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_43079.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_43079.html)) にて

## 大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律の成立について

## 改正の経緯

- **令和3年1月～6月** 「大麻等の薬物対策のあり方検討会」の開催。とりまとめにおいて、「大麻から製造された医薬品の施用規制の見直し」、「大麻草の部位規制からTHC等有害成分に着目した規制へ見直し」、「大麻の「使用」に対する罰則の導入」が示された。
- **令和4年4月～9月** 厚生科学審議会に「大麻規制検討小委員会」を設置。「大麻等の薬物対策のあり方検討会」のとりまとめを踏まえ、大麻取締法・麻薬及び向精神薬取締法の改正に向けた技術的な検討を開始。小委員会のとりまとめにおいて、下記改正の方向性が示された。
  - ① 医薬品の施用規制の見直しによる医療ニーズへの対応
  - ② 大麻使用罪の創設と有害成分（THC）に着目した成分規制の導入
  - ③ 製品の適切な利用と製品中のTHC濃度規制
  - ④ 大麻草の栽培及び管理の規制の見直し
- **令和5年1月12日** 医薬品医療機器制度部会にて、上記とりまとめが了承。
- **令和5年10月24日** 大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律案 閣議決定・国会提出
- **令和5年12月13日** 大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律 公布

## 国会審議の状況

- |              |            |         |                       |              |
|--------------|------------|---------|-----------------------|--------------|
| ● <b>衆議院</b> | 令和5年11月8日  | 厚生労働委員会 | 提案理由説明                |              |
|              | 令和5年11月10日 | 厚生労働委員会 | 質疑・参考人の意見陳述・参考人に対する質疑 | 賛成多数により可決    |
|              | 令和5年11月14日 | 本会議     |                       | 賛成多数により可決    |
| ● <b>参議院</b> | 令和5年11月16日 | 厚生労働委員会 | 提案理由説明                |              |
|              | 令和5年11月30日 | 厚生労働委員会 | 参考人の意見陳述・参考人に対する質疑    |              |
|              | 令和5年12月5日  | 厚生労働委員会 | 質疑                    | 賛成多数により可決    |
|              | 令和5年12月6日  | 本会議     |                       | 賛成多数により可決・成立 |

## 資料2

## 「第六次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップ

2024年7月発表 厚生労働省

## 「第六次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップの概要

令和6年7月23日  
薬物乱用対策推進会議

## [令和5年の薬物情勢]

- 薬物事犯の検挙人員（医薬品医療機器等法違反によるものを除く）は13,815人（+1,194人/+9.46%）と前年より増加した。このうち、覚醒剤事犯の検挙人員は6,073人（-216人/-3.43%）と8年連続で減少し、5年連続で1万人を下回っている。また、大麻事犯の検挙人員については6,703人（+1,157人/+20.9%）と過去最高値を大幅に更新するとともに、初めて覚醒剤事犯の検挙人員を上回った。
- 覚醒剤の押収量は1,601.6kg（+1,126.3kg/+237.0%）と前年より大幅に増加した。大麻の押収量のうち、乾燥大麻の押収量は850.0kg（+519.3kg/+157.0%）と前年より増加した。大麻リキッドに代表される大麻濃縮物の押収量は56.5kgであった。  
一方、コカインの押収量は56.2kg（+13.4kg/+31.3%）、MDMA等錠剤型合成麻薬の押収量は169,743錠（+74,129錠/+77.5%）と前年より増加した。
- 薬物密輸入事犯の検挙件数は472件（+124件/+35.6%）、検挙人員は563人（+120人/+27.1%）と2年連続で検挙件数、人員ともに増加した。  
30歳未満の検挙人員は、覚醒剤事犯、大麻事犯ともに前年より増加し、大麻事犯全体に占める30歳未満の検挙人員の割合は72.9%（+3.7P）と過去最高を更新した。
- 覚醒剤事犯の再犯者率は66.0%（-1.7P）と前年より減少した。
- 大麻事犯の初犯者率は76.4%であり、初犯者が占める割合が高い。
- 危険ドラッグ事犯の検挙人員は444人（+132人/+42.3%）と前年より増加した。

## 目標1 青少年を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止

- 薬物の専門知識を有する各関係機関の職員等が連携し、学校等において薬物乱用防止教室を実施したほか、各種啓発資料の作成・配布を行った。〔文科・警察・財務・法務・厚労〕
- 大麻の乱用拡大が進む若年層に対し、薬物乱用の危険性・有害性に関する正しい知識を普及するため、大学等や民間企業における薬物乱用防止講習を実施したほか、薬物乱用防止指導員や学校薬剤師等の講師による学校等における薬物乱用防止教室の実施、有職・無職少年を対象とした薬物乱用防止読本の作成・配布、関係省庁のウェブサイトやSNSへの広報啓発資料・動画の掲載といった広報啓発活動を実施した。〔警察・文科・厚労〕
- 家庭及び社会における広報啓発として、各種運動、薬物乱用防止に関する講演、街頭キャンペーン等、地域住民を対象とした広報啓発活動を実施するとともに、ウェブサイトやリーフレット等の啓発資材に相談窓口を掲載し、広く周知した。〔内閣府・警察・こども・消費者・法務・財務・文科・厚労〕
- 海外渡航者が安易に大麻に手を出したり、「運び屋」として利用されたりすることのないよう、法規制や有害性を訴えるポスター等の活用を図ったほか、ウェブサイトやSNS等で注意喚起を実施した。〔警察・外務・財務・厚労〕

## 目標2 薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援による再乱用防止

- 「依存症対策地域支援事業」の実施により、依存症専門医療機関及び依存症治療拠点機関の選定を推進するとともに、「依存症対策全国拠点機関設置運営事業」により医療従事者の依存症治療に対する専門性の向上と地域における相談・治療等の指導者となる人材の養成を実施した。〔厚労〕
- 薬物事犯で検挙された者のうち、保護観察処分が付かない執行猶予判決を受けた者等、相談の機会が必要と認められる薬物乱用者に対して、再乱用防止プログラムの実施を強化するとともに、パンフレットを配布して全国の精神保健福祉センターや家族会等を紹介するなど相談窓口の周知を徹底した。〔厚労・警察〕
- 薬物事犯者の処遇プログラムを担当する職員への研修等の実施により、職員の専門性向上を図るとともに、関係機関が連携し、薬物処遇と社会復帰支援を一体的に実施した。〔法務・厚労〕
- 家族会を開催する民間支援団体等を支援するとともに、保健所、精神保健福祉センターにおいて民間支



援団体と連携して家族教室等を実施した。さらに、再非行に走る可能性のある少年やその保護者に対し、積極的に指導・助言等の支援活動を行った。〔法務・厚労・警察〕

### 目標 3 国内外の薬物密売組織の壊滅、大麻をはじめとする薬物の乱用者に対する取締りの徹底及び多様化する乱用薬物等に対する迅速な対応による薬物の流通阻止

- 各種捜査手法の効果的な活用に努め、薬物密売組織の中枢に位置する者に焦点を当てた取締りを推進し、令和5年中、首領・幹部を含む暴力団構成員等2,809人を検挙した。〔警察・法務・財務・厚労・海保〕
- 令和5年中、麻薬特例法第11条等に基づく薬物犯罪収益等の没収規定を54人に、同法第13条に基づく薬物犯罪収益等の追徴規定を199人にそれぞれ適用し、没収・追徴額の合計は約4億292万円に上った。〔法務〕
- 危険ドラッグ等取扱業者に対する取締りを推進し、危険ドラッグの把握に努め、29物質を新たに指定薬物に指定した。〔厚労〕
- 迅速な鑑定体制を構築し、未規制物質や新たな形態の規制薬物の鑑定に対応するため、資機材の整備を行うとともに、薬物分析手法にかかる研究・開発を推進し、会議等を通じ関係省庁間で情報を共有した。〔警察・財務・厚労・海保〕
- ダークウェブ、暗号資産を利用した密輸・密売事犯に適切に対応するため、関係機関との情報共有体制や、サイバー捜査に特化した部門を強化し、サイバー空間を利用した薬物密売事犯に対し捜査を展開した。〔警察・厚労〕
- 近年の若年層を中心とした大麻事犯の増加等の国内における薬物情勢、諸外国における大麻から製造された医薬品の医療用途への活用、大麻草由来成分の活用等の国際的な動向を踏まえ大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の改正を行い、大麻を麻薬として位置づけ、施用罪を適用する等の法整備を行った。〔厚労〕

### 目標 4 水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止

- 関係機関間において緊密な連携を取り、捜査・調査手法を共有した結果、統一的な戦略の下に効果的、効率的な取締りが実施され、令和5年中、水際において、約2,406kgの不正薬物の密輸を阻止した。〔警察・財務・厚労・海保〕
- 麻薬等の原料物質に係る輸出入の動向及び使用実態を把握するため、国連麻薬統制委員会（INCIB）と情報交換を行うとともに、関係機関と連携し、麻薬等の原料物質取扱業者等に対し、管理及び流通状況等にかかる合同立入検査等を実施した。〔厚労・経産・海保〕
- 訪日外国人の規制薬物持込み防止のため、関係省庁のウェブサイト等での情報発信に加え、民間団体等に対して広報協力の働きかけを行うとともに、国際会議や在外関係機関を通じて広報・啓発を実施した。〔財務・警察・厚労・法務・外務・海保〕

### 目標 5 国際社会の一員としての国際連携・協力を通じた薬物乱用防止

- 国際捜査共助等を活用し、国際捜査協力を推進するとともに、国際的な共同オペレーションを進めた結果、薬物密輸入事案等を摘発した。〔法務・警察・財務・厚労・海保・外務〕
- 第66会期国連麻薬委員会（CND）会期間・再開会期会合、第67会期CNDハイレベル会合・通常会合、アジア太平洋薬物取締機関長会議（HONLAP）及び国連薬物・犯罪事務所（UNODC）開催のSMART 犯罪科学プログラムに関する活動等に参加し、参加各国における薬物の乱用状況、乱用対策等に関する情報を入手するとともに、国際機関や諸外国関係者等と積極的な意見交換を行い、我が国の立場や取組について情報共有を図った。〔警察・外務・財務・厚労・海保〕



### 【当面の主な課題】

令和5年の我が国の薬物情勢は、大麻事犯の検挙人員が6,703人となり、過去最多であった令和3年を大幅に更新し、大麻事犯の検挙人員に係る統計が確認できる昭和26年以降、初めて覚醒剤事犯の検挙人員を上回った。特に大麻事犯の検挙人員の7割以上が30歳未満の若年層であり、依然として大麻の乱用拡大に歯止めがかからない状況にあることから、我が国は引き続き「若年者大麻乱用期」の渦中にあると言える。大麻の乱用拡大を阻止すべく、令和5年12月に成立・公布となった改正法の施行も控える中、関係省庁と連携の上、予防啓発や取締りの強化などの対策を徹底していく必要がある。

また、地域社会の中において、薬物依存症者及びその家族が関係機関の支援を受けられるよう環境整備を推進していくことが求められており、薬物依存症治療を実施する医療機関の整備を図るほか、関係機関が連携して、薬物依存症者への各施策を一体的に実施していくこととする。

危険ドラッグ事犯については増加傾向にある中、令和5年に入りTHC等に類似した化合物を含有する危険ドラッグを摂取したことによる健康被害が相次いで報告されたことを受け、関係機関が連携して調査を行い、危険ドラッグ販売店舗と健康被害情報等の実態を把握した。また、令和5年9月に危険ドラッグ対策会議を開催し、必要な対策の検討を行うとともに、関係機関との情報共有や、取締体制の強化を図った。さらに、危険ドラッグ販売店舗への立入検査、検査命令及び販売等停止命令を実施するなど関係機関と連携した取締りの強化を行うとともに、広域的に規制する必要があると認められた製品については、医薬品医療機器等法に基づき、全国的に販売等を禁止する旨を告示した。引き続き、これらの取締りを徹底していくとともに、包括指定を含めた指定薬物への迅速な指定を行い、乱用断絶に向けた取組を行っていく。

また、密輸入事犯の検挙人員は前年より増加し、水際での不正薬物全体の押収量は約2,406kgと、過去2番目に多かった。我が国で乱用されている規制薬物の大半は海外から密輸されたものと考えられており、密輸形態別に見ると、海上貨物及び航空貨物から複数の大口事犯が摘発され押収量が増加しているのみならず、航空旅客からの摘発が著しく増加している。新型コロナウイルス感染症拡大防止による水際措置の終了などにより、入国者数は、新型コロナウイルス感染症拡大前まで戻りつつあることから、今後ますます航空旅客による密輸事犯の増加が懸念される。このため、関係機関が連携して、民間団体・事業者に対する広報協力の働きかけを行うとともに、引き続き、海外渡航者・訪日外国人への規制薬物持込み防止に関する広報・啓発活動を実施する必要がある。

さらに、近年、欧米諸国においてフェンタニルなどの合成オピオイド等の乱用が深刻な社会問題となっていることに対して、国を跨いだ新たな枠組みが創設されており、こうした枠組みを通じて、関係諸国と更なる連携を深めていくほか、引き続き国際機関等との情報共有や国際会議等への参加による情報収集を行うなど、より一層国際機関や各国機関との連携を強化していくこととする。

厚生労働省ウェブサイト内「薬物乱用対策」に掲載

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/iyaku\\_hin/yakubutsuran\\_you\\_taisaku/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iyaku_hin/yakubutsuran_you_taisaku/index.html)

〔参考データ：各年1月1日から12月31日まで〕

## ●全薬物事犯検挙人員

(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
検挙人員	13,437	13,887	13,841	14,019	14,322	13,860	14,567	14,408	12,621	13,815

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

(注) 覚醒剤、大麻、麻薬・向精神薬、あへん事犯の検挙人員の合計。

## ●覚醒剤事犯検挙件数、検挙人員

(件、人)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
検挙件数	15,571	16,168	15,374	14,496	14,289	12,155	12,292	11,809	9,012	8,603
検挙人員	11,148	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730	8,654	7,970	6,289	6,073

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

## ●覚醒剤以外の薬物事犯検挙人員

(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
大麻	1,813	2,167	2,722	3,218	3,762	4,570	5,260	5,783	5,546	6,703
麻薬・向精神薬	452	516	505	505	528	558	638	639	783	1,033
コカイン	66	103	153	185	217	213	204	169	253	391
ヘロイン	7	3	0	9	10	7	7	0	0	3
MDMA等錠剤型合成麻薬	35	29	37	41	57	90	219	247	265	250
あへん	24	4	7	12	2	2	15	16	3	6

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

## ●薬物押収量

(kg、MDMA等錠剤型合成麻薬は錠)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
覚醒剤	570.2	431.8	1,521.4	1,136.6	1,206.7	2,649.7	824.4	998.7	475.3	1,601.6
乾燥大麻	166.6	104.6	159.7	270.5	337.3	430.1	299.1	377.2	330.7	850.0
大麻濃縮物									90.0	56.5
大麻樹脂	36.7	3.9	1.0	21.9	3.1	14.8	3.6	2.9	5.6	1.0
コカイン	2.3	18.6	113.3	11.6	157.4	639.9	821.7	15.1	42.8	56.2
ヘロイン	0.0	2.0	0.0	70.3	0.0	16.7	14.8	0.0	0.0	0.0
あへん	0.2	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	-	0.0
MDMA等錠剤型合成麻薬	608	1,074	5,122	3,244	12,307	73,915	106,308	80,623	95,614	169,743

出典：警察庁、財務省、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

(注) 「0.0」とあるのは、押収量が微量であったことを表す。

## ●少年の覚醒剤事犯の検挙人員

(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
総数	94	119	136	93	98	97	99	115	103	107
うち中学生	2	1	7	0	3	3	0	1	1	3
うち高校生	12	14	18	8	13	10	11	13	12	8

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

## ●少年及び20歳代の覚醒剤事犯の検挙人員

(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
総数	1,489	1,556	1,437	1,334	1,285	1,151	1,114	1,156	918	947
うち少年	94	119	136	93	98	97	99	115	103	107
うち20歳代	1,395	1,437	1,301	1,241	1,187	1,054	1,015	1,041	815	840

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

## ●少年の大麻事犯の検挙人員

(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
総数	80	144	211	301	434	615	899	1,000	917	1,246
うち中学生	3	3	2	2	7	6	8	8	11	21
うち高校生	18	24	32	53	74	110	159	189	150	230

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

## ●少年及び20歳代の大麻事犯の検挙人員

(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
総数	745	1,049	1,237	1,519	2,007	2,622	3,511	3,934	3,840	4,887
うち少年	80	144	211	301	434	615	899	1,000	917	1,246
うち20歳代	665	905	1,026	1,218	1,573	2,007	2,612	2,934	2,923	3,641

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

## ●大麻事犯における初犯者率

(人、%)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
検挙人員	1,813	2,167	2,722	3,218	3,762	4,570	5,260	5,783	5,546	6,703
うち初犯者数										5,119
比率 (%)										76.4

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

(注) R4年以前は、大麻事犯における初犯者数を把握していない。

## ●薬物乱用防止教室の開催状況

(校、%)

		H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4
小学校	開催校数	15,418	15,676	15,886	15,747	15,467			13,373	14,220
	開催率	72.3	76.2	77.3	79.1	78.6			70.7	75.5
中学校	開催校数	9,519	9,312	9,541	9,328	9,190			8,056	8,418
	開催率	88.3	88.9	91.0	91.0	90.6			82.0	86.1
義務教育学校	開催校数			25	85	151			228	290
	開催率			100.0	83.3	91.0			76.5	81.2
高等学校	開催校数	3,980	3,990	4,104	4,092	4,004			3,570	3,793
	開催率	83.6	84.6	86.3	86.4	85.8			78.0	82.6
中等教育学校	開催校数	37	39	40	68	78			64	68
	開催率	75.5	78.0	76.9	66.7	76.5			62.1	63.0

出典：文部科学省調べ

(注1) 各年4月1日から翌3月31日まで

(注2) 義務教育学校はH28より創設

(注3) H31・R1、R2は、新型コロナウイルス感染症の対応を踏まえ、調査を中止

## ●覚醒剤事犯検挙人員に占める暴力団関係者数

(人、%)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
検挙人員	11,148	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730	8,654	7,970	6,289	6,073
うち暴力団関係者	6,066	5,758	5,114	4,796	4,687	3,777	3,592	3,058	2,199	1,970
構成比 (%)	54.4	51.4	48.2	46.6	46.7	43.3	41.5	38.3	35.0	32.4

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

## ●覚醒剤事犯における再犯者率

(人、%)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
検挙人員	11,148	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730	8,654	7,970	6,289	6,073
うち再犯者数	7,190	7,237	6,879	6,740	6,613	5,765	5,937	5,338	4,258	4,008
比率 (%)	64.5	64.6	64.9	65.5	65.9	66.0	68.6	66.9	67.7	66.0

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

## ●出所受刑者の2年以内再入率（覚醒剤取締法違反）

(人、%)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3
出所受刑者人員	6,649	6,788	6,456	6,184	6,144	6,134	5,982	5,367	5,008	4,531
うち2年以内再入者数	1,316	1,324	1,338	1,187	1,149	1,061	957	846	776	581
比率 (%)	19.8	19.5	20.7	19.2	18.7	17.3	16.0	15.8	15.5	12.8

出典：法務省調べ

## ●薬物密輸入事犯検挙件数・検挙人員

(件、人)

		H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
覚醒剤	件数	154	78	85	130	137	293	87	62	146	218
	人員	180	102	108	159	172	357	143	95	196	297
大麻	件数	42	67	49	89	107	123	105	120	78	90
	人員	43	64	52	77	94	122	103	145	92	97
麻薬・ 向精神薬	件数	66	129	86	108	139	148	94	103	124	164
	人員	76	125	87	80	108	116	84	126	155	169
あへん	件数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	人員	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
合計	件数	262	274	220	327	383	564	286	286	348	472
	人員	299	291	247	316	374	595	330	367	443	563

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

## ●危険ドラッグ事犯検挙人員

(人、%)

	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5
指定薬物に係る医薬品医療機器法違反	653	383	183	140	130	275	340
うち少年	2	1	1	2	3	17	29
構成比 (%)	0.3	0.3	0.5	1.4	2.3	6.2	8.5
医薬品医療機器法違反以外の法令違反	73	50	17	19	34	37	104
うち少年	0	0	1	0	0	3	9
構成比 (%)	0	0	5.9	0	0	8.1	8.7
合計	726	433	200	159	164	312	444
うち少年	2	1	2	2	3	20	38
構成比 (%)	0.3	0.2	1.0	1.3	1.8	6.4	8.6

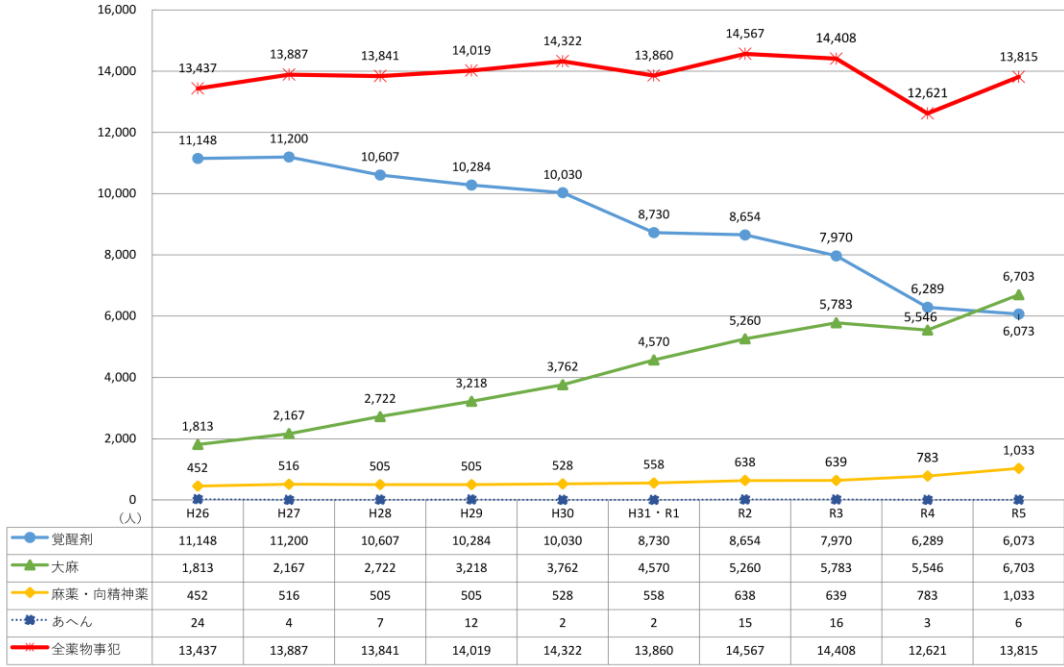
出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

(注) 医薬品医療機器法違反以外の法令違反とは麻薬及び向精神薬取締法違反、交通関連法令等。



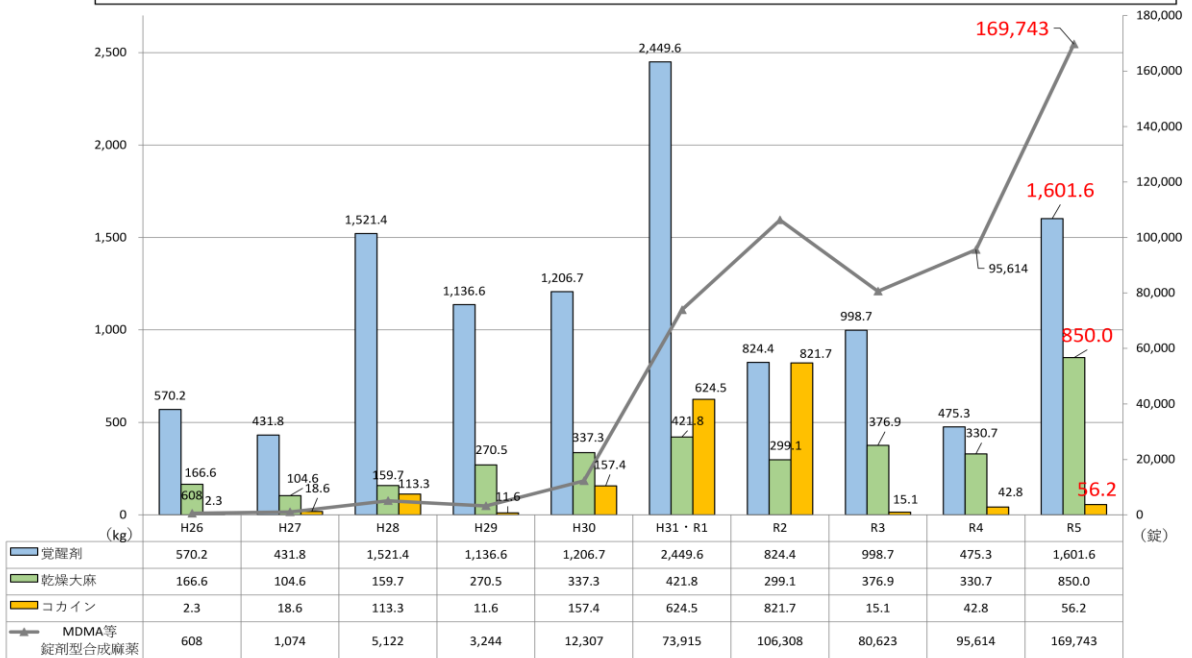
### 薬物事犯検挙人員の推移

- 薬物事犯全体の検挙人員は、**前年より増加**
- 大麻事犯の検挙人員は、**過去最多を更新し、初めて覚醒剤の検挙人員を上回った**
- 麻薬事犯の検挙人員は、**過去10年で最多**



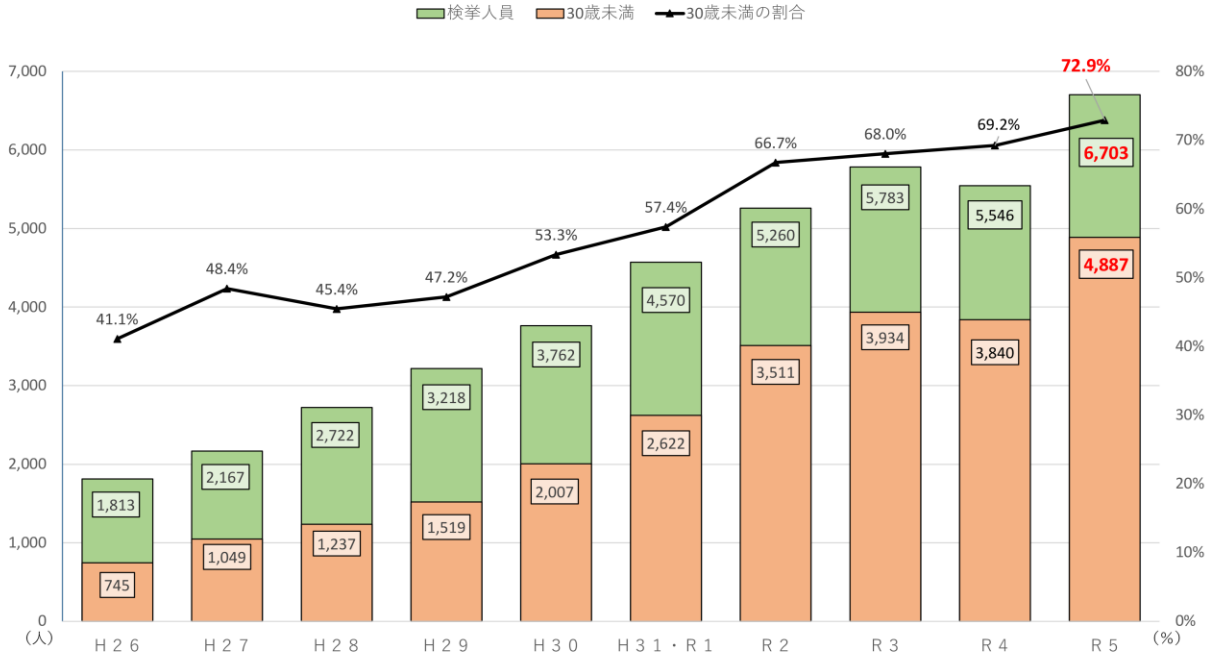
### 薬物押収量の推移

- 覚醒剤押収量は、**前年より増加して、約1,600キログラムを押収**
- 乾燥大麻押収量は**前年より増加して、850キログラムを押収**
- MDMA等錠剤型合成麻薬押収量は**前年より大幅に増加**



## 大麻事犯における検挙人員及び30歳未満の割合

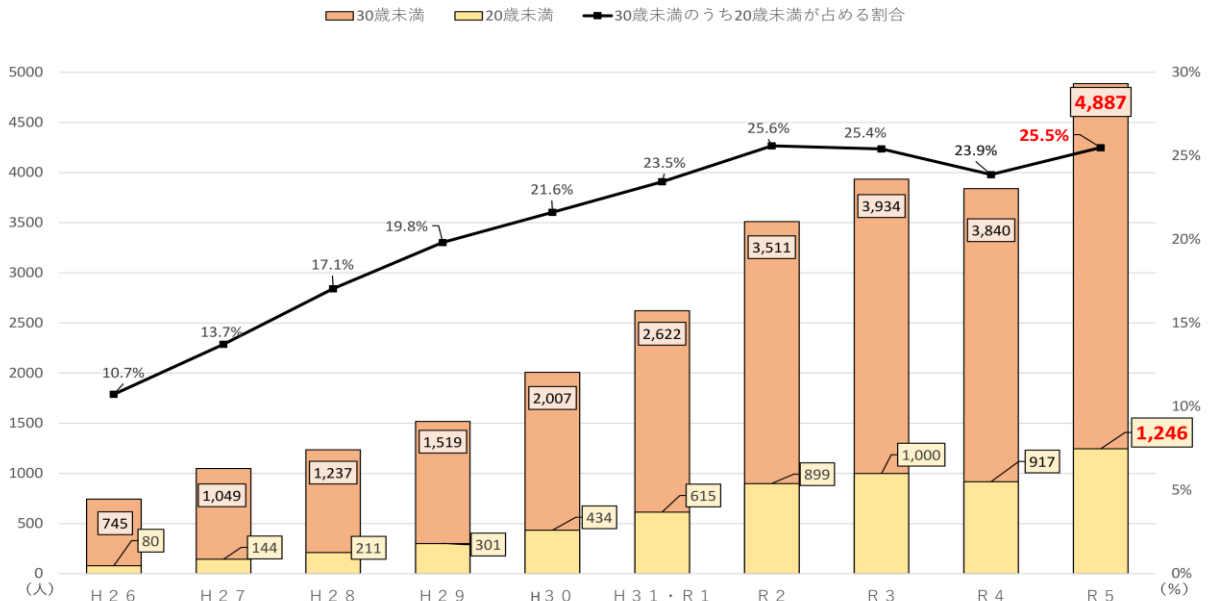
- 大麻事犯における30歳未満の検挙人員は、**過去最多**
- 大麻事犯の検挙人員のうち、**30歳未満**が占める割合は**72.9%**



3

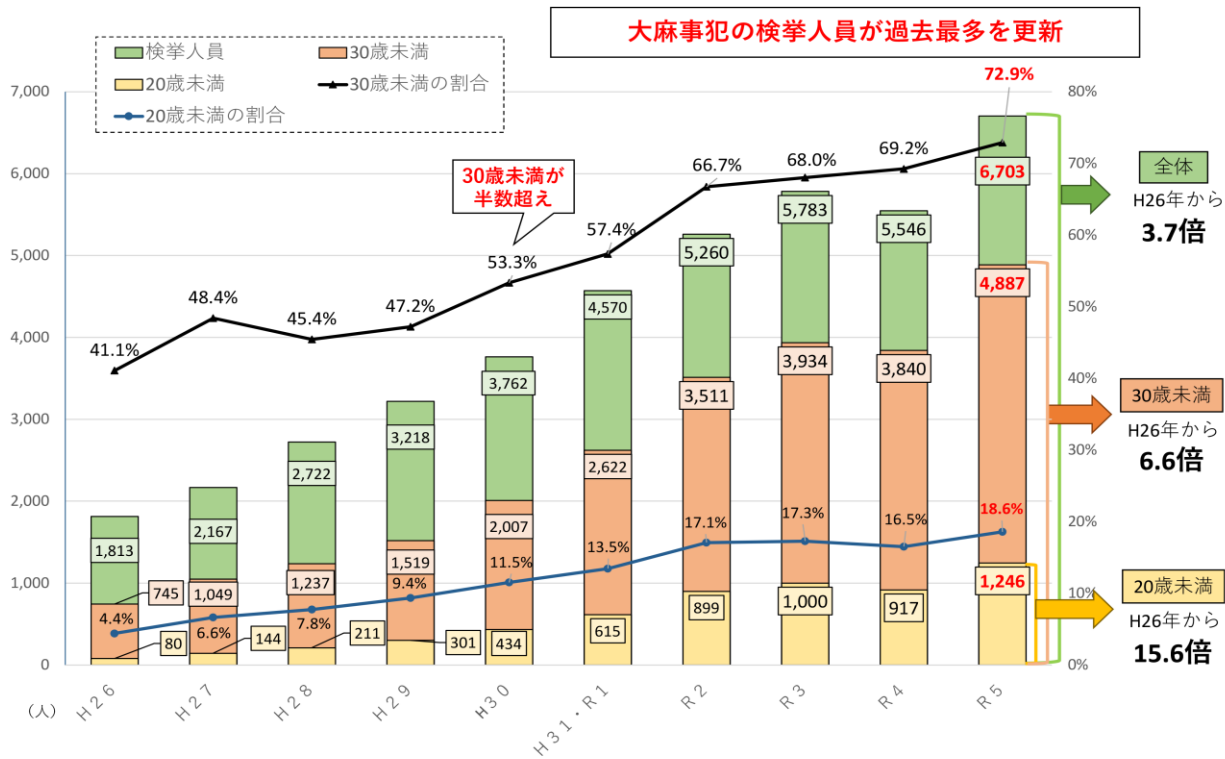
## 大麻事犯における20歳未満の検挙人員

- 大麻事犯における20歳未満の検挙人員は、**過去最多**
- 30歳未満の検挙人員のうち**20歳未満**が占める割合は**25.5%**



4

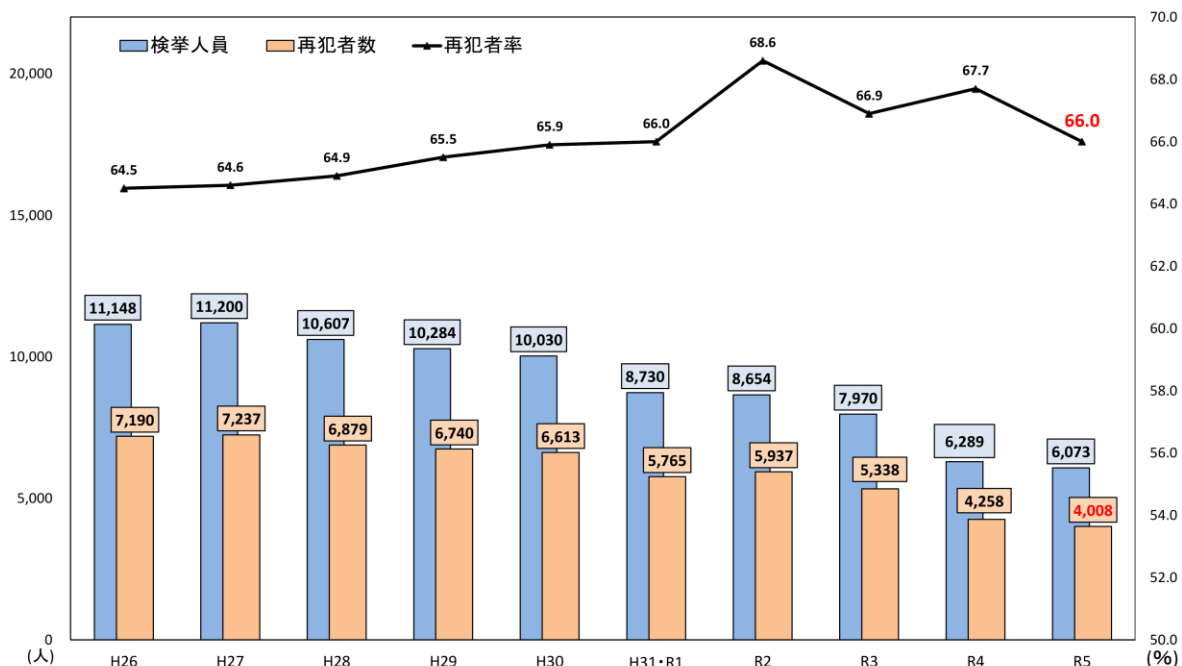
## 大麻事犯における検挙人員の推移（年齢別）



5

## 覚醒剤事犯における再犯者率の推移

○覚醒剤事犯の再犯者率は、前年よりわずかに減少して**66.0%**



6



## センターからのお知らせ

### ○「薬物乱用防止教育認定講師養成講座」開始

薬物乱用防止教育活動を拡大するため、ライオンズクラブ国際協会と共催して、ライオンズクラブ会員を主たる対象に、学校等における薬物乱用防止教育においてボランティアとして活動する講師を養成する「薬物乱用防止教育認定講師養成講座」が今年9月2日の千葉県での開催を皮切りに、来年3月末まで国内45か所で開催される予定です。

9月30日時点では千葉、群馬、広島、福山、高知の5地区で終了し、今後も全国で薬物乱用防止活動を担う多くの認定講師が誕生します。



千葉会場



群馬会場



広島会場



福山会場

## ○「がん疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進講習会」開始

がん患者のQOLの向上を図るため、がん患者の状況に応じて疼痛緩和等の医療が早期から適切に行われることを目的とした、がん疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進講習会は、10月19日の沖縄県での開催を皮切りに、来年3月22日まで、東京都、広島県、福岡県、北海道、石川県、岩手県、奈良県の8か所で順次開催されます。

## ○2024明治安田J1リーグ 第30節 川崎フロンターレ vs サガン鳥栖

9月13日（金 19:00キックオフ/会場：Uvanceとどろきスタジアム by Fujitsu）の川崎フロンターレの試合時に薬物乱用防止啓発イベントを行いました。その際、ハーフタイムに動画が放映されました

情報提供：川崎市



川崎フロンターレの試合にて放映

## ○ウィーン国際センターに建立された平和と薬物乱用防止を願う「平和の鐘」がまもなく建立30周年を迎えます

国連ビルのあるウィーン国際センターには、1995年に財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター、財団法人日本相撲協会（両団体は、現在いずれも公益財団法人。）の寄付により、「平和の鐘」（正式名称：平和及び麻薬撲滅祈願の鐘）が建立され、来年30周年を迎えます。この鐘は、平和や核兵器廃絶、薬物乱用防止に関連するイベントで使用されています。



平和の鐘



建立式典の様子（1995年10月）

詳しくは  
在ウィーン国際機関日本政府代表部HP [https://www.vie-mission.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/unodc20240919.html](https://www.vie-mission.emb-japan.go.jp/itpr_ja/unodc20240919.html)

ニュースレターを配信という形式でお送りすることは、今回が初めての試みとなりましたが、いかがでしたでしょうか。今後も皆様にインターネットの特性を活かして、最新の情報をより分かりやすくお届けするよう心がけて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

## ご寄付団体及び賛助会員

2024年4月1日から2024年8月31日までに、当センターにご寄付いただいた団体及びご入会いただいた賛助会員の方は次の通りです。

ご協力ありがとうございました。

### 【ご寄付団体・個人】

東京八王子陵東ライオンズクラブ  
ライオンズクラブ国際協会333-E地区 キャビネット事務局  
東京けやきライオンズクラブ  
有限会社 歩率繰駆（プリツクリーク）  
（一社）北海道医薬品配置協会  
東京恵比寿ロータリークラブ

有馬 悦子 様  
鎌田 淳一 様  
ツカモトミチコ 様  
金井 智子 様  
松尾 数明 様  
内海 修 様

### 【法人賛助会員】

エスエス製薬株式会社  
株式会社アムズメディカル  
（株）豊島印刷

UUUM株式会社  
丸石製薬株式会社  
一般財団法人 東京都警察懇話会

### 【個人賛助会員】

杉谷 宏枝 様  
石原 俊哉 様  
荻野 真由美 様  
村松 滝夫 様  
原 恒道 様  
石井 征二 様  
永浜 静江 様  
村島 吉豊 様  
福田 将己 様  
小池 和子 様  
寺田 義和 様  
今井 啓祐 様  
児玉 金之助 様  
和田 義広 様  
池田 冬美 様  
北川 けい子 様  
神澤 正三 様  
梶原 正和 様  
和田 裕幸 様  
野々 晴久 様  
鈴木 正二 様  
吉川 研司 様  
小山 功男 様

小谷 健司 様  
古木 光義 様  
三口 巖 様  
大屋 博 様  
森 一男 様  
神垣 鎮 様  
小清 水征次 様  
根津 万寿夫 様  
山地 義夫 様  
鳴戸 大二 様  
若杉 和久 様  
中村 盾夫 様  
山田 順子 様  
矢口 博行 様  
千葉 信雄 様  
村岸 治幸 様  
篠原 久仁子 様  
松石 高之 様  
山本 章 様  
渡貫 直正 様  
玉川 里 様  
古瀬 智之 様  
横路 望 様

鈴木 孝 様  
岡田 譲治 様  
佐藤 精一郎 様  
中嶋 敏次 様  
津村 信彦 様  
荒木 貞雄 様  
山本 稔 様  
丸井 一弘 様  
森 和弘 様  
秋吉 克紀 様  
村田 昭夫 様  
井田 和男 様  
川江 修 様  
鎌田 淳一 様  
高橋 千尋 様  
黒宮 恵 様  
金子 雄一 様  
仲 眞美子 様  
中島 義人 様  
空閑 正樹 様  
松尾 数明 様  
藤山 智雄 様  
後藤 高見 様

(順不同)



